Roland

取扱説明書

パッケージ内容の確認

R-05 は、以下のものを付属しています。パッケージを開けたら、すべてのものが入っているか確認してください。
不足している場合は、お買い上げになった販売店までご連絡ください。

❑ R-05 本体

❑ USB ケーブル（ミニ B タイプ）

パソコンのUSB端子とR-05を接続するためのケーブルです。

（メモ）

USB ケーブルが破損などにより新しいものが必要になった場合には、保証書の封筒に記載されている「修理に関するお問い合わせ」までお問い合わせください。

❑ SD カード

R-05 で録音や再生を行うときに必要なメモリー・カードです。デモ・ソングや取扱説明書の PDF ファイルが収録されています。

❑ 電池（単 3 x 2）

❑ ウインド・スクリーン

内蔵マイクにかぶせる風避けです。

❏ 取扱説明書

本書です。常に手元において、いつでも参照できるようにしてください。

❏ かんたんスタート・ガイド

電池のセットから録音・再生までの手順を簡潔に説明しています。

❏ ローランド ユーザー登録カード

R-05 のユーザーとして登録していただくための登録カードです。

ローランド ユーザー登録カードに記載されている登録方法をお読みになり、必ずユーザー登録をしてください。

❏ 保証書

R-05 本体の保証書です。保証期間内に R-05 の修理を受ける際に必要ですので、記載事項を確認の上、大切に保管してください。

この機器を正しくお使いいただくために、ご使用前に「安全上のご注意」(P.4)と「使用上のご注意」(P.10)をよくお読みください。また、この機器の優れた機能を十分ご理解いただくためにも、取扱説明書をよくお読みください。取扱説明書は必要なときにすぐに見ることができるよう、手元に置いてください。

安全上のご注意

火災・感電・傷害を防止するには

⚠警告と⚠注意の意味について

⚠警告	取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表わしています。
⚠注意	取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を表わしています。 ※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を表わしています。

図記号の例

	△は、注意（危険、警告を含む）を表わしています。 具体的な注意内容は、△の中に描かれています。 左図の場合は、「一般的な注意、警告、危険」を表わしています。
	⃠は、禁止（してはいけないこと）を表わしています。 具体的な禁止内容は、⃠の中に描かれています。 左図の場合は、「分解禁止」を表わしています。
	● は、強制（必ずすること）を表わしています。 具体的な強制内容は、● の中に描かれています。 左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表わしています。

以下の指示を必ず守ってください

⚠警告

● この機器および AC アダプターを分解したり、改造したりしないでください。

● 修理／部品の交換などで、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。必ずお買い上げ店またはローランドお客様相談センターに相談してください。

● 次のような場所に設置しないでください。

○ 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
○ 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
○ 湯気や油煙が当たる場所
○ 塩害の恐れがる場所
○ 雨に濡れる場所
○ ほこりや砂ぼこりの多い場所
○ 振動や揺れの多い場所

⚠警告

● この機器を、ぐらつく台の上や傾いた場所に設置しないでください。必ず安定した水平な場所に設置してください。

● AC アダプターは、必ず指定のものを、AC100V の電源で使用してください。

● 電源コードは、必ず AC アダプターに付属のものを使用してください。また、AC アダプターに付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。

● 電源コードを無理に曲げたり、電源コードの上に重いものを載せたりしないでください。電源コードに傷がつき、ショートや断線の結果、火災や感電の恐れがあります。

⚠ 警告

● この機器を単独で、あるいはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、直ちに使用をやめて専門の医師に相談してください。

● この機器に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水、ジュースなど）を絶対に入れないでください。

⚠ 警告

● 次のような場合は、直ちに電源を切ってAC アダプターをコンセントから外し、電池を本体から取り外してお買い上げ店またはローランドお客様相談センターに修理を依頼してください。

○ AC アダプター本体、電源コード、またはプラグが破損したとき
○ 煙が出たり、異臭がしたとき
○ 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたりしたとき
○ 機器が（雨などで）濡れたとき
○ 機器に異常や故障が生じたとき

● お子様のいるご家庭で使用する場合、お子様の取り扱いやいたずらに注意してください。必ず大人のかたが、監視／指導してあげてください。

● この機器を落としたり、この機器に強い衝撃を与えないでください。

⚠ 警告

● 電源は、タコ足配線などの無理な配線をしないでください。特に、電源タップを使用している場合、電源タップの容量（ワット／アンペア）を超えると発熱し、コードの被覆が溶けることがあります。

● 外国で使用する場合は、お買い上げ店またはローランドお客様相談センターに相談してください。

● 電池は、充電、加熱、分解したり、または火や水の中に入れたりしないでください。

● 電池を、日光、炎、または同様の過度の熱にさらさないでください。

⚠ 注意

● この機器と AC アダプターは、風通しのよい、正常な通気が保たれている場所に設置して、使用してください。

● AC アダプターを機器本体やコンセントに抜き差しするときは、必ずプラグを持ってください。

● 定期的に AC アダプターを抜き、乾いた布でプラグ部分のゴミやほこりを拭き取ってください。また、長時間使用しないときは、AC アダプターをコンセントから外してください。AC アダプターとコンセントの間にゴミやほこりがたまると、絶縁不良を起こして火災の原因になります。

● 接続したコードやケーブル類は、繁雑にならないように配慮してください。特に、コードやケーブル類は、お子様の手が届かないように配慮してください。

⚠注意

● この機器の上に乗ったり、機器の上に重いものを置かないでください。

● 濡れた手で AC アダプターのプラグを持って、機器本体やコンセントに抜き差ししないでください。

● この機器を移動するときは、AC アダプターをコンセントから外し、外部機器との接続を外してください。

● お手入れをするときには、電源を切って AC アダプターをコンセントから外してください（P.29）。

● 落雷の恐れがあるときは、早めに AC アダプターをコンセントから外してください。

⚠注意

● 電池の使いかたを間違えると、破裂したり、液漏れしたりします。次のことに注意してください（P.26）。

○ 電池の＋と - を間違えないように、指示どおり入れてください。

○ 新しい電池と一度使用した電池や、違う種類の電池を混ぜて使用しないでください。

○ 長時間使用しないときは、電池を取り出しておいてください。

○ 液漏れを起こした場合は、柔らかい布で電池ケースについた液をよくふきとってから新しい電池を入れてください。また、漏れた液が身体についた場合は、皮膚に炎症を起こす恐れがあります。また眼に入ると危険ですのですぐに水でよく洗い流してください。

○ 電池を、金属性のボールペン、ネックレス､ヘアピンなどと一緒に携帯したり、保管したりしないでください。

⚠ 注意

- 使用済みの電池は、各市町村のゴミ分別収集のしかたに従って、捨ててください。

- 付属の SD カードは、小さなお子様が誤って飲み込んだりすることのないようお子様の手の届かないところへ保管してください。

使用上のご注意

電源、電池のセットや交換について

- 本機を冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、エアコンなどのインバーター制御の製品やモーターを使った電気製品が接続されているコンセントと同じコンセントに接続しないでください。電気製品の使用状況によっては、電源ノイズにより本機が誤動作したり、雑音が発生する恐れがあります。電源コンセントを分けることが難しい場合は、電源ノイズ・フィルターを取り付けてください。
- AC アダプターを長時間使用すると AC アダプター本体が多少発熱しますが、故障ではありません。
- 電池のセットや交換は、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、他の機器と接続する前にこの機器の電源を切った状態で行なってください。
- この機器には、電池が付属されています。この電池は、機器の動作確認用のため、寿命が短い場合があります。

設置について

- この機器の近くにパワー・アンプなどの大型トランスを持つ機器があると、ハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くでこの機器を動作させると、テレビ画面に色ムラが出たり、ラジオから雑音が出ることがあります。この場合は、この機器を遠ざけて使用してください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発信時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、それらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。
- 直射日光の当たる場所や、発熱する機器の近く、閉め切った車内などに放置しないでください。変形、変色することがあります。
- 極端に温湿度の違う場所に移動すると、内部に水滴がつく（結露）ことがあります。そのまま使用すると故障の原因になりますので、数時間放置し、結露がなくなってから使用してください。

- 設置条件（設置面の材質、温度など）によっては本機のゴム足が、設置した台などの表面を変色または変質させることがあります。
ゴム足の下にフェルトなどの布を敷くと、安心してお使いいただけます。この場合、本機が滑って動いたりしないことを確認してからお使いください。

お手入れについて

- 通常のお手入れは、柔らかい布で乾拭きするか、堅く絞った布で汚れを拭き取ってください。汚れが激しいときは、中性洗剤を含んだ布で汚れを拭き取ってから、柔らかい布で乾拭きしてください。
- 変色や変形の原因となるベンジン、シンナーおよびアルコール類は、使用しないでください。

修理について

- お客様がこの機器や AC アダプターを分解、改造された場合、以後の性能について保証できなくなります。また、修理をお断りする場合もあります。
- 修理に出される場合、記憶した内容が失われることがあります。大切な録音データはパソコンにバックアップし、また記憶内容をメモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記録内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。
- 当社では、この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

メモリー・バックアップについて

- 電池およびアダプターが抜かれた状態が数日続くと内蔵時計の設定は失われます。

その他の注意について

- 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などにより、失われることがあります。失っても困らないように、録音データはパソコンにバックアップし、また記憶内容をメモして保存しておいてください。
- SD カードの失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
- 故障の原因になりますので、ボタン、つまみ、入出力端子などに過度の力を加えないでください。
- ディスプレイを強く押したり、叩いたりしないでください。
- ディスプレイから多少音がすることがありますが、故障ではありません。
- ケーブルの抜き差しは、ショートや断線を防ぐため、プラグを持ってください。
- 音楽をお楽しみになる場合、隣近所に迷惑がかからないように、特に夜間は、音量に十分注意してください。ヘッドホンを使用すれば、気がねなくお楽しみいただけます。
- 輸送や引っ越しをするときは、この機器が入っていたダンボール箱と緩衝材、または同等品で梱包してください。
- この機器が入っていた梱包箱や緩衝材を廃棄する場合、各地域のゴミの分別基準に従って行ってください。
- 接続ケーブルには抵抗が入ったものがあります。本機との接続には、抵抗入りのケーブルを使用しないでください。音が極端に小さくなったり、まったく聞こえなくなる場合があります。抵抗の入っていない接続ケーブルをご使用ください。
  他社製の接続ケーブルをご使用になる場合、ケーブルの仕様につきましては、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。

カードをお使いになる前に

SD カードの取り扱い

- SD カードは精密な電子部品で作られていますので、取り扱いについては次の点に注意してください。
  - ○ 静電気による破損を防ぐため、取り扱う前に身体に帯電している静電気を放電しておく。
  - ○ 端子部に手や金属で触れない。
  - ○ 曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えたりしない。
  - ○ 直射日光の当たる場所や、閉め切った自動車の中などに放置しない。水に濡らさない。
  - ○ 分解や改造をしない。

- SD カードは、確実に奥まで差し込んでください。
- SD カードの端子の部分に触れたり、汚したりしないでください。

著作権について

- 第三者の著作物（音楽作品、映像作品、放送、実演、その他）の一部または全部を、権利者に無断で録音、録画あるいは複製し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- 第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本機を使用しないでください。あなたが本機を用いて他者の著作権を侵害しても、弊社は一切責任を負いません。

※ Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

※ Windows® の正式名称は、Microsoft® Windows® operating system です。

※ Apple、Macintosh は、米国 Apple Inc. の米国及びその他の国における登録商標です。

※ Mac OS は、米国 Apple Inc. の登録商標です。

※ MPEG Layer-3 オーディオ圧縮技術は、Fraunhofer IIS 社と THOMSON multimedia 社よりライセンスを得ています。

※ SD ロゴ（ ）および SDHC ロゴ（ ）は SD-3C, LLC の商標です。

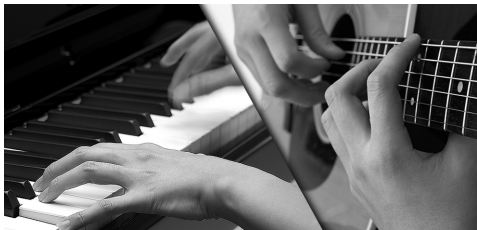
※ MMP（Moore Microprocessor Portfolio）はマイクロプロセッサーのアーキテクチャーに関する TPL（Technology Properties Limited）社の特許ポートフォリオです。当社は、TPL 社よりライセンスを得ています。

本文中の表記について

- ［　］で囲まれた文字はボタン名を表わし［MENU］のように表記します。
- 文章の先頭に ご注意! や※がついているものは注意文です。必ずお読みください。
- 本文中の（P.**）は参照ページをあらわしています。

もくじ

こんなことができます

アコースティック楽器を録る

録りたい楽器に R-05 本体のマイクを向けるだけで、高音質な録音ができます。

R-05 を市販の三脚に取り付けたり、別売の専用マイク・スタンド・アダプターを使って市販のマイク・スタンドに取り付けたりすることもできます。

参照
『アコースティック楽器の録音』（P.58）

ボーカルを録る

マイク・スタンドに取り付けてボーカルを録音できます。別売の専用マイク・スタンド・アダプターを使えば、R-05 本体をボーカル・マイクと同じようにマイク・スタンドにセッティングできます。

再生時にリバーブ（残響）効果をかけて聴くこともできます。

参照
『ボーカルの録音』（P.59）

バンド演奏を録る

練習スタジオで、大音量バンドの音もクリアに録音できます。最適な録音レベルを自動的に設定したり、自動的にファイルを分割したりすることもできます。

CD製作に使える高音質のWAVファイルと小容量のMP3ファイルを同時に録音することもできます（P.41）。

参照
『バンド演奏の録音』（P.60）

野外の音を録る

野外でも手軽に録音ができます。録音ボタンを押した時点から2秒前にさかのぼって録音を開始することもできるので、絶好のタイミングを逃さずに録音できます（P.50）。

単3乾電池2本で約16時間の連続録音が可能です。

参照
『野外での録音』（P.61）

会議を録る

テーブルの中央に設置して会議を録音します。高感度の内蔵マイクで、声の小さい人や遠くの人の声もはっきりと録音できます。

さらに、発言者の声の大きさに応じて録音レベルを自動調整し、バランスが良い音量で録音することもできます(P.48)。

参照
『会議の録音』(P.62)

カセットや CDの音を録る

ライン入力端子に CD プレーヤーやカセットデッキなどのオーディオ機器を接続して、再生した音を録音できます。

参照
『カセットや CDの音を録音する』(P.55)

オーディオ・プレーヤーとして使う

ヘッドホンを接続して、高音質な携帯オーディオ・プレーヤーとしても使うことができます。繰り返し再生や、自動的に曲順を並べ変えて再生することもできます。

R-05で録音したファイル以外にも、パソコンから取り込んだWAV ファイルやMP3 ファイルも再生可能です。

参照
『再生する』（P.63）

参照
『パソコンと接続する』（P.70）

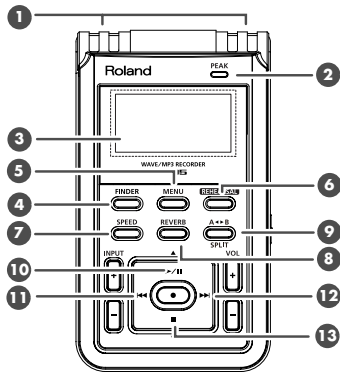
音楽の練習パートナーとして使う

楽器やボーカルの練習に役立つ機能も搭載されています。指定した区間だけを繰り返し再生したり、ピッチを変えずに再生速度を変えたりすることができます。

聞き取りにくいフレーズだけをゆっくり何度も再生したり、速い速度で再生して、短時間で楽曲の全体構成を確認したりすることができます。

参照
『ファイルの一部分を繰り返し再生する』（P.66）

参照
『再生する速度を変える』（P.67）

各部の名称とはたらき

1 内蔵マイク

R-05 本体内蔵のステレオ・マイクです（P.52）。

2 PEAK インジケーター

入力や出力の音量が大きすぎる場合に点灯します。

参照

『録音レベルを調節する』（P.44）

3 ディスプレイ

R-05 のさまざまな情報を表示します。

4 [FINDER] ボタン

ファイルの一覧表示、名前の変更、消去、コピーなどの操作を行います（P.74）。

5 [MENU] ボタン

録音や再生に関する設定や日時の設定など R-05 本体の各種設定を行います（P.89）。

6 [REHEARSAL] ボタン

自動的に適切な録音レベルを設定します（P.45）。

7 [SPEED] ボタン

ファイルの再生速度を変更します（P.67）。

8 [REVERB] ボタン

リバーブ機能のオン／オフや、リバーブ種類を切り替えます（P.68）。

❾ [A◀▶B] ／ [SPLIT] ボタン

ファイルの途中の 2 点間（A-B の区間）を繰り返し再生させることができます。ファイル内に A マークと B マークをつけると、A マークと B マークの間をリピート再生します。1 回押すと A マークがつき、もう 1 回押すとB マークがつきます。

また、録音中に押すと、ファイルを分割します。

参照

- 『ファイルの一部分を繰り返し再生する』（P.66）
- 『録音中にファイルを分割する』（P.56）

❿ [▶/II] ボタン

再生を開始させたり、再生や録音を一時停止させたりします。

また、ディスプレイ上のカーソル位置を上方向に移動させたり、選択項目の値を変更したりします。

⓫ [⏮] ボタン

ファイルの頭出しや前のファイルを選択します。押し続けると、その間ファイルを巻き戻します。

再生中／停止状態のどちらの状態でも操作できます。

また、ディスプレイ上のカーソル位置を左方向に移動させたり、選択項目の値を変更したりします。

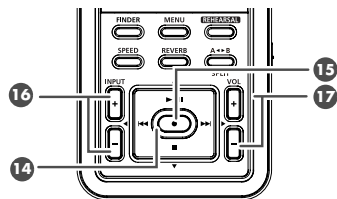
⓬ [⏭] ボタン

次のファイルを選択します。押し続けると、その間ファイルを早送りします。

再生中、停止状態のどちらの状態でも操作できます。また、カーソルの右キー（カーソルを右方向に移動）として機能したり、選択項目の値を変更したりします。

⓭ [■] ボタン

再生や録音を停止します。

また、ディスプレイ上のカーソル位置を下方向に移動させたり、選択項目の値を変更したりします。

⑭ REC インジケーター

録音（REC）状態のときに赤く点灯します。

録音待機（REC PAUSE）状態のときに点滅します。

⑮［ ● ］ボタン

録音待機、録音開始を行います。

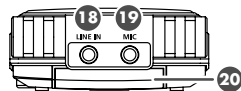
また、選択項目を確定します。

⑯ INPUT ［＋］［－］ボタン

内蔵マイク、MIC 端子、LINE IN 端子から入力される音声の大きさを調節します（P.44）。

［＋］ボタンを押すと、入力される音量が大きくなります。［－］ボタンを押すと、入力される音量が小さくなります。

⑰ VOL ［＋］［－］ボタン

PHONES 端子から出力される音量を調節します。

⑱ LINE IN 端子

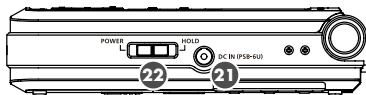
オーディオ機器や電子楽器などから出力されるオーディオ信号を R-05 に入力するときに、ステレオ・ミニ・プラグのケーブルを使って接続します（P.55）。

音量の調節には INPUT［＋］［－］ボタンを使います。

⑲ MIC 端子

外部マイクを接続するときに使用します（P.52）。

⑳ SD カード・スロット

SD カードを差し込むスロットです（P.31）。

21 DC IN 端子

別売の専用 AC アダプターを接続します（P.29）。

ご注意!

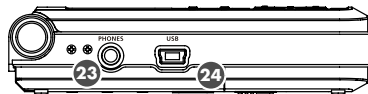
AC アダプターの抜き差しは、必ず R-05 の電源をオフにしてから行います。

22 [POWER ／ HOLD] スイッチ

スイッチをPOWER側にスライドさせて電源のオン／オフを切り替えます（P.26）。電源をオンにした状態でスイッチを右側に固定するとHOLD がオンになります。

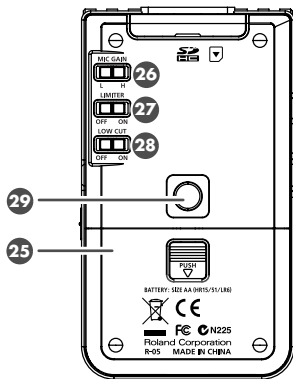
HOLD を ON にしておくと、誤操作の防止に役立ちます。

HOLD スイッチが ON でも操作可能なボタン

- [MIC GAIN] スイッチ
- [LIMITER] スイッチ
- [LOW CUT] スイッチ

23 PHONES 端子

ヘッドホンを接続します（P.37）。

24 USB 端子

付属の USB ケーブルでパソコンと接続します。R-05 で録音したファイルをパソコンに移動したり、またパソコンから R-05 に WAV や MP3 をコピーして、再生させたりすることができます（P.70）。

㉕ 電池ケース

電池を入れます（P.26）。

㉖ [MIC GAIN] スイッチ

マイク入力の感度を切り替えます（P.47）。

㉗ [LIMITER] スイッチ

リミッターまたは AGC をオン／オフします。通常は OFF に設定します。

リミッターと AGC の切り替えは「メニュー」画面で行います。

参照

『リミッターまたは AGC を使う』（P.48）

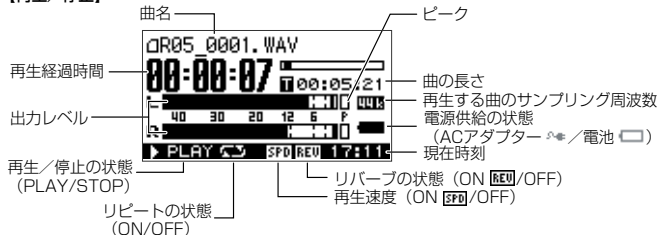
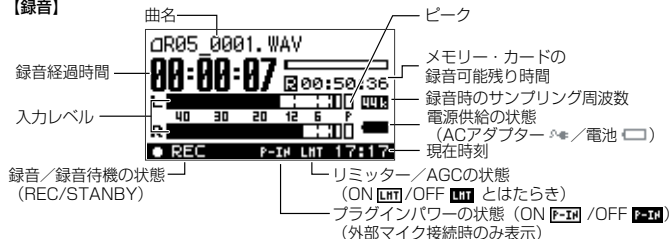
㉘ [LOW CUT] スイッチ

LOW CUT をオン／オフします。通常は OFF に設定します（P.49）。

㉙ 三脚取り付け用ネジ穴

市販のカメラ用三脚が取り付けできるネジ穴です。（ネジ穴のサイズは 1/4 インチです。）

基本画面

基本画面に表示されるおもなアイコンや情報について説明します。

電源を入れる／電源を切る

電池で使う

使用できる電池の種類

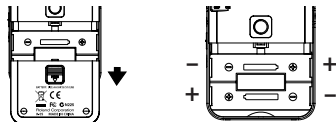
- 単3 アルカリ電池（LR6）
- 単3 ニッケル水素電池（HR15/51）

ご注意!
R-05 本体でニッケル水素電池を充電することはできません。お使いのニッケル水素電池専用の充電器を用意してください。

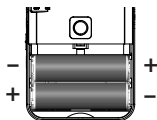
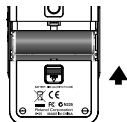
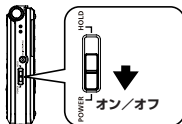
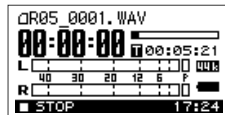
1. 電源がオフになっていることを確認します。

電源がオンになっている場合はオフにします。R-05 の［POWER］スイッチを POWER 側にスライドさせると、電源のオン／オフを切り換えられます。

2. 本体背面にある電池ケースのフタを開けます。

R-05 を裏返し、電池ケースの中央の「PUSH」を押さえながらフタを下方向にスライドさせます。

ご注意!
本体を裏返す際は、落下や転倒を引き起こさないよう取扱いにご注意ください。

3. **電池をセットします。**

＋ / −極を間違えないようにして、単 3 電池2 本を電池ケースに入れます。

4. **電池ケースのフタを閉めます。**

5. **［POWER］スイッチをPOWER 側に数秒間スライドさせて、電源をオンにします。電源をオフにするには、再度［POWER］スイッチを POWER 側に数秒間スライドさせます。**

電源がオンになるとディスプレイに右のような画面が表示されます。これを**基本画面**といいます。

6. **電池の種類を設定します。**

「メニュー」画面で使用する電池の種類（アルカリ電池またはニッケル水素電池）を選びます。

参照

『R-05本体の各種設定』（P.89）

R-05 を電池でお使いになるときの注意

- 新しい電池と一度使用した電池や違う種類の電池を混ぜて使用しないでください。
- 長時間使用しないときは、電池の液漏れ防止などのためにも本体から電池を抜いておくことをおすすめします。
- 液漏れを起こした場合は、柔らかい布で電池ケースについた液をよくふきとってから新しい電池を入れてください。また、漏れた液が身体についた場合は、皮膚に炎症を起こす恐れがあります。また眼に入ると危険ですのですぐに水でよく洗い流してください。
- 電池を、金属性のボールペン、ネックレス、ヘアピンなどと一緒に携帯したり、保管したりしないでください。

省電力機能

- R-05は無駄な電力消費を防ぐため、省電力機能がついています。何も操作しない状態が一定時間続くと、省電力機能の設定に応じてディスプレイが暗くなったり、電源が切れたりします。

参照
『R-05本体の各種設定』（P.89）

電池残量表示

- 電池容量が少なくなると、ディスプレイの下段右側に電池残量不足のアイコン が表示されます。早めに新しい電池と交換してください。
電池容量が少ないまま使い続けると、「Battery Low」と表示され、最終的に R-05 のすべての機能が停止します。

参照
『エラー・メッセージ一覧』（P.94）

電池寿命（アルカリ電池使用時）

連続再生時	約 30 時間以上
連続録音時	約 16 時間以上

※ 上記の電池寿命は目安です。使用環境や使いかたによって電池寿命は変わります。

AC アダプターで使う

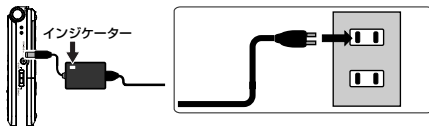
R-05 は、別売の専用 AC アダプターで使うことができます。

ご注意!

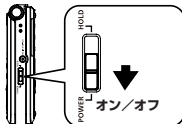
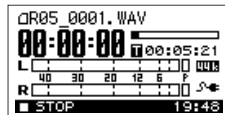
専用アダプター以外は故障の原因になることがありますので絶対に使用しないでください。

1. **電源がオフになっていることを確認します。**

2. **AC アダプターの DC プラグを R-05 の AC アダプター端子に差し込みます。**

AC アダプターは、インジケーターのある面が上になるように設置してください。

3. **AC アダプターを電源コンセントに差し込みます。**

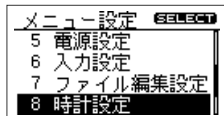
AC アダプターのインジケーターが点灯します。

4. **[POWER] スイッチを POWER 側に数秒間スライドさせて、電源をオンにします。電源をオフにするには、再度 [POWER] スイッチを POWER 側に数秒間スライドさせます。**

電源がオンになるとディスプレイに右のような画面が表示されます。これを**基本画面**といいます。

メモ

- 電池が入っている状態でAC アダプターを接続すると、電源はAC アダプター側から供給されます。
- 電源を入れるときに音がすることがありますが、故障ではありません。
- AC アダプターを使用する場合でも電池を入れておくと、万一製品本体からAC アダプターのコードが抜けても使い続けられます。

日付と時刻を設定する

初めて 電源を入れたときは、次の 手順で内蔵時計を設定してください。ここで設定した 日時は、録音したファイルの情報（タイム・スタンプ）として利用されます。

1. [MENU] を押して「メニュー」画面を表示させ、[►/II] ／ [■] で「時計設定」を選び、[●] を押します。

ご注意!

- 内蔵時計は AC アダプターまたは電池から電力を供給されて動作します。電池およびアダプターが抜かれた状態が数日間続くと内蔵時計の設定は元に戻ってしまいます（初期状態)。この初期状態で電源をオンにすると「日付／時刻を設定してください」のメッセージが表示されます。
- 「日付／時刻を設定してください」が表示されたら、再度日付と時刻を設定してください。

2. 日付と時刻を設定します。

[⏮] ／ [⏭] でカーソルを左右に動かします。

```
時計設定
2010-04-01(木)
(YYYY-MM-DD)
17:20:00
[REC]で確定します
```

カーソルが変更したい文字の位置にきたら、[►/II] ／ [■] で日付と時刻を変更し、[●] を押して確定します。

```
時計設定
2010-04-01(木)
(YYYY-MM-DD)
17:20:00
[REC]で確定します
```

3. [MENU] を押して基本画面に戻ります。

SD カードを準備する

付属の SD カード以外をお使いになる場合は、ローランド・ホームページ（http://roland.jp/info/R-05）をご覧ください。最新の動作確認情報をご案内しています。

デモ・ソングについて

付属の SD カードにはデモ・ソングが収録されています。

- SD メモリー・カードにデモ・ソングが入っている状態では、デモ・ソングの容量だけカードの録音時間が短くなります。

※ デモ・ソングを個人で楽しむ以外に権利者の許諾なく使用することは、法律で禁じられています。権利者に無断でこれらのデータの複製を作ったり、二次的著作物で利用したりしてはいけません。

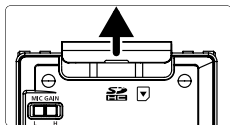
SD カードをセットする

差し込む

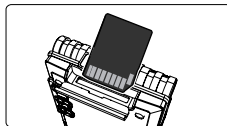
1. 電源がオフになっていることを確認します。

もし電源がオンになっている場合はオフにします。

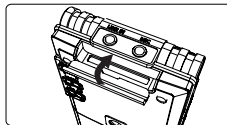
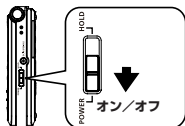
2. 本体上部にある SD カバーを開きます。

SD カバーのくぼみに爪などをひっかけて上に引っ張ります。

無理に引っ張ると破損するおそれがありますのでご注意ください。

3. SD カードをセットします。

SD カードの表裏を R-05 本体の表裏と同じ向きに合わせてゆっくりと挿入してください。

ご注意!

- SD カードの向きが逆の状態で無理に挿入すると、R-05 本体や SDカードを破損するおそれがあります。ご注意ください。
- SD カードは、確実に奥まで挿し込んでください。

4. SD カバーを閉じます。

5. [POWER] スイッチを POWER 側に数秒間にスライドさせて、電源をオンにします。

メモ

フォーマットされていない SD カードが R-05 にセットされていると、「フォーマットされていません」と表示されます。

SD カードを取り出す

1. R-05 本体の電源をオフにします。

2. SD カバーを開きます。

3. SD カードを軽く奥に押し、指を離します。

SD カードが手前に出てきたら取り出します。

ご注意!

本体の電源を入れたまま、SD カードの抜き差しをしないでください。SD カード内のデータが失われる可能性があります。

SD カードをフォーマットする

フォーマットとは、定められた情報の記憶形式に従って、SDカードを初期化することをいいます。付属の SD カード以外をお使いになる場合は、最初にSDカードのフォーマットが必要です。

ご注意!

- SD カードのフォーマットは、必ず R-05 本体で行ってください。R-05以外の機器でフォーマットしたSD カードは R-05 では正しく動作しないことがあります。
- SD カードをフォーマットすると、すべてのデータが消去されます。
- 付属のSD カードはフォーマット済みです。新たにフォーマットすると、収録されているデモ・ソングや取扱説明書のPDF ファイルも消えてしまいます。必要に応じてパソコンにバックアップしておきましょう。

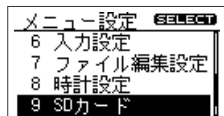
参照

『パソコンと接続する』(P.70)

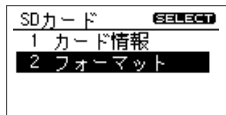
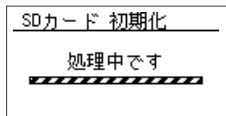
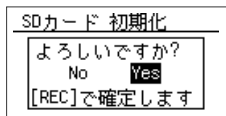
1. SD カード・スロットに、フォーマットしたい SD カードが差し込まれていることを確認します。

参照

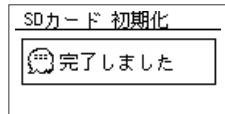
『SD カードをセットする』(P.32)

2. [MENU] を押して「メニュー」画面を表示させ、[►/II] ／ [■] で「SD カード」を選び、[●] を押します。

メモ

途中で操作を中止したい場合には、[MENU] を押してください。ひとつ前の画面に戻ります。

3. **［ ▶/II ］／［ ■ ］で「フォーマット」を選び、［ ● ］を押します。**

4. **確認の画面が表示されたら［ ▶▶I ］で「Yes」を選び、［ ● ］を押します。**

ご注意!

「処理中です」と表示されている間はSD カードを絶対に取り出さないでください。SD カード内の記憶エリアが破損することがあります。

「完了しました」と表示されたらフォーマット完了です。

5. **［MENU］を2 回押して基本画面に戻ります。**

SD カードについて

付属の SD カード以外をお使いになる場合は、ローランド・ホームページ（**http://roland.jp/info/R-05**）をご覧ください。最新の動作確認情報をご案内しています。

ご注意!

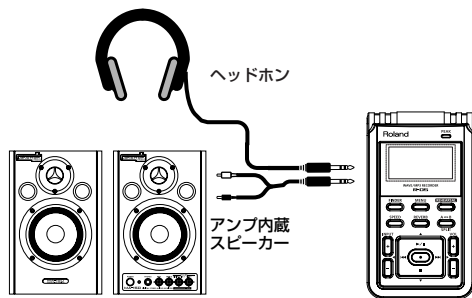
- R-05 は SD ／ SDHC カードに対応しています。
- SD カードのメーカーや種類によっては、R-05 で正しく録音や再生ができないものがあります。
- 本体の電源を入れたまま、SD カードの抜き差しをしないでください。SD カード内のデータが失われる可能性があります。
- SD カードは挿入方向や表裏に注意し、確実に奥まで差し込んでください。また無理な挿入はしないでください。

（メモ）

SD カードの書き込み禁止（LOCK）機能について

SD カードの側面にある書き込み禁止スイッチを「LOCK」方向にスライドさせると書き込みできなくなり、SD カード内のデータを保護することができます。録音やデータの削除などの操作をしたい場合は書き込み禁止を解除してお使いください。

ヘッドホンやスピーカーを使う

R-05 本体にはスピーカーが内蔵されていま せん。再生音を聴くためには、ヘッド ホンやアンプ内蔵スピ ーカーを別途ご用意ください。

スピーカーの接続

ご注意!

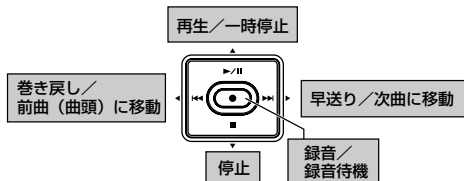
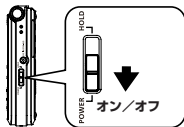
必ず次の手順で電源を投入してください。手順を間違えると、誤動作をしたりスピーカーなどが破損したりするおそれがあります。

1. **R-05 の電源を切ります。**
2. **接続するスピーカーのボリュームを最小にして電源を切っておきます。**
3. **スピーカーを接続します。**

   アンプを内蔵しているスピーカーのみ接続できます。

   R-05 の PHONES 端子とスピーカーのライン入力端子をオーディオ・ケーブルで接続します。
4. **R-05 の電源をオンにします。**
5. **スピーカーの電源を入れて、ボリュームを少しずつ大きくして音量を調節します。**

録音する

録音の基本操作

1. **R-05 の電源をオンにします（P.26）。**

2. **サンプリング周波数を設定します（P.42）。**

3. **録音モード（ファイルの種類）を設定します（P.42）。**

4. **［MENU］を 2 回押して基本画面に戻ります。**

5. **録音レベルを調整します。**

［ ● ］を押して録音待機状態にし、録音する音の大きさを調整します（P.44）。

6. **録音を始めます。**

録音待機状態（REC インジケーターが点滅）で

［ ● ］、または、［ ►/II ］を押します。

REC インジケーターが点灯し、録音が始まります。

メモ

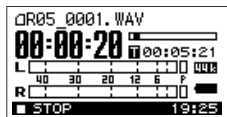
録音を始めてから［HOLD］スイッチをオンにしておくと、ボタンが誤って押されても録音が止まったり録音レベルが変わりません。

ご注意!

- MIC端子やLINE IN端子にマイクや機器を接続している場合は、内蔵マイクは使用できません。内蔵マイクを使用する場合には、MIC 端子やLINE IN 端子に何も接続しないでください。
- 録音待機状態や録音中に INPUT ［+］［−］を操作すると、録音レベルが変わってしまいます。INPUT ［+］［−］を誤って操作しないよう気をつけてください。
- 録音中は電源をオフにすることができません。一度録音を停止してから電源をオフにしてください。

7. [■] を押して、録音を停止します。

REC インジケーターが消灯します。

ディスプレイには、録音したファイルが表示されます（P.25）。

メモ

- 一時停止する場合は、［ ►/II ］を押します。
  一時停止を解除して録音を再開するときは、再度［ ►/II ］を押してください。
- ファイル名は、R05_0001.WAV のように自動的に作成されます。
  0001 の部分は存在するファイル名の中で、最も大きい番号の次の番号がつけられます。
- 録音設定でファイル名が「日付」に設定されているときは、録音した日時がファイル名になります『R-05 本体の各種設定』（P.89）。

8. [►/II]を押して、録音したファイルを再生します。

『再生の基本操作』（P.63）

録音の音質を設定する

録音する音質を設定することができます。
音質設定はサンプリング周波数と録音モードの組み合わせで設定します。音質によってファイルのサイズが異なり、SD カードに録音できる時間も異なります。
音質を優先するか録音時間を優先するかなど、目的に合った設定をしてください。

参照

『用途にあわせた録音の設定』（P.58）

サンプリング周波数

（初期値：太字）

サンプリング周波数の値	**44.1kHz**
	48.0kHz
	88.2kHz
	96.0kHz

サンプリング周波数の値が大きいほど高音質になります。高音を正確に再現したい場合は、高いサンプリング周波数が必要です。

メモ

- サンプリング周波数の値が大きくなるとファイルのサイズが大きくなり、録音可能な時間が短くなります。
- ビデオ作品の編集で、オーディオ・トラックに録音したものを取り込む場合には 48kHz に設定することをおすすめします。
- 録音したファイルのサンプリング周波数を R-05 で変換することはできません。

ご注意!

サンプリング周波数が 88.2kHz、96.0kHz のときは、録音モードで MP3 および WAV+MP3 を選ぶことはできません（P.41）。

録音モード

（初期値：太字）

録音モード	
録音モード	**WAV-16bit**
	WAV-24bit
	MP3-64kbps
	MP3-96kbps
	MP3-128kbps
	MP3-160kbps
	MP3-192kbps
	MP3-224kbps
	MP3-320kbps
	WAV+MP3 (WAV-16bit+MP3-128kbps)

WAVのファイルはMP3のファイルよりも高音質で録音することができます。
MP3 の設定で録音すると、WAV の設定で録音したときよりもファイルのサイズが小さくなり、長時間の録音が可能になります。また、bit と bps の値が大きくなるとファイルのサイズが大きくなり、録音可能な時間が短くなります。
WAV+MP3 は WAV ファイルと MP3 ファイルを同時に作成します。

メモ

Windows Media Player などソフトウェアによっては 24bit のWAV は再生できません。

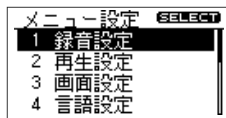
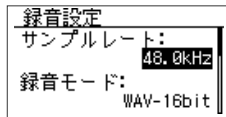
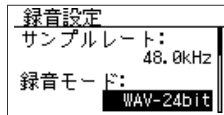
ご注意!

- MP3 およびWAV+MP3 はサンプリング周波数が44.1kHz、48.0kHz のときしか選べません。
- WAV+MP3 が選択されているときはWAV-16bit、MP3-128kbps 固定になります。

音楽用に使われるフォーマットの例

用途	録音モード	容量の目安
業務用（プロ品質）	WAV 24bit/48kHz	1 分で 約 20MB
パソコンで 音楽CD 製作	WAV 16bit/44.1kHz	1 分で 約 10MB
インターネット 音楽配信	MP3 128kbps/44.1kHz	1 分で 約 1MB

サンプリング周波数と録音モードを設定する

1. [MENU] を押して「メニュー」画面を表示させ、[►/II] ／ [■] で「録音設定」を選び、[●] を押します。

2. [⏮] ／ [⏭] でサンプルレートの値を変更します。

3. [►/II] ／ [■] で録音モードの行にカーソルを合わせ、[⏮] ／ [⏭] で録音モードの値を変更します。

ご注意!

WAV+MP3 が選択されているときは WAV-16bit、MP3-128kbps 固定になります。

4. [MENU] を2 回押して基本画面に戻ります。

録音時間の目安

SD カードに録音できる時間の目安は以下のとおりです。

録音可能時間（目安） 単位：分

録音モード		SD カードのサイズ				
		2GB	4GB	8GB	16GB	32GB
WAV	WAV（24bit／96kHz）	55	110	220	450	900
	WAV（24bit／88.2kHz）	60	120	240	490	980
	WAV（24bit／48kHz）	110	220	440	900	1800
	WAV（24bit／44.1kHz）	120	240	480	980	1950
	WAV（16bit／96kHz）	80	160	320	670	1350
	WAV（16bit／88.2kHz）	88	176	352	735	1470
	WAV（16bit／48kHz）	166	332	664	1350	2700
	WAV（16bit／44.1kHz）	180	360	720	1470	2950
MP3	MP3（320kbps）	797	1540	3080	6450	12950
	MP3（128kbps）	1993	3990	7980	16180	32350
WAV+MP3	WAV（16bit／48kHz）+MP3（128kbps／48kHz）	152	305	610	1240	2490
	WAV（16bit／44.1kHz）+MP3（128kbps／44.1kHz）	165	330	660	1345	2690

ご注意!

- 上記の録音時間は目安です。カードの仕様により変わることがあります。
  また、録音されたファイルが複数ある場合、合計の録音時間はこれより短くなります。
- 1 ファイルの録音可能なサイズは最大 2GB です。

録音レベルを調節する

R-05 は、幅広い音を収録するように設計されていますが、録音対象に応じて最適な録音レベル（音量）設定を行うことで、より高音質で録音することができます。レベル設定の基本は、歪まない範囲でできる限り大きなレベル（音量）で入力することです。これは内蔵マイク、外部マイク、LINE IN のいずれを使用する場合でも同じです。

手動で録音レベルを設定する

ご注意！

AGC が ON のときは、手動で録音レベルを設定できません。

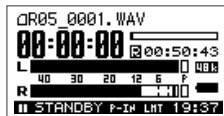
1. 録音したい対象に R-05 のマイクを向けます。

2. 基本画面で［ ● ］を押して REC インジケーターを点滅させます。

録音待機状態になります。

3. マイクに向かって実際に録音する音を鳴らしてみます。

R-05 に入力される音の大きさに応じてレベル・メーターが振れます。

ヒント

楽器演奏やボーカルなど、音楽の演奏を録るときは楽曲の一番音量の大きい部分を演奏するとよいでしょう。

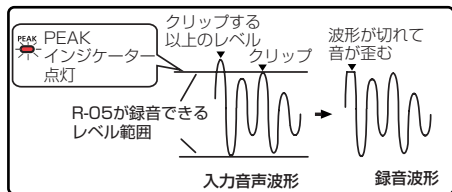
4. 音を鳴らしながら、INPUT ［+］［−］を押し、録音レベルを少しずつ調整します。

必要に応じて、［MIC GAIN］スイッチを切り替えてください（P.47）。

メモ

レベル・メーターが右に振れるほど大きな音を集音していることを表わします。できるだけ大きく集音するように INPUT ［+］［−］を押して調整してください。

ただし、PEAK インジケーターが点灯してしまうと、入力音量が大き過ぎる状態です。

PEAK インジケーターが点灯している状態というのは、R-05 が記録できる最大の入力音量に達している状態（クリップしている状態）で、さらに大きな音が入ってきても本来の音量で録音されません。このようなとき録音された音はバリバリと歪んだ状態になっています。

もっとも大きな音でも PEAK インジケーターが点灯しない（クリップしない）ように INPUT ［+］［−］を調整します。歌であれば一番盛り上がるところ、楽器であればフォルテシモの音が出るときにクリップしないようにしておきます。

レベルの設定が終わってから、もう一度［ ● ］を押すと録音が始まります。

メモ

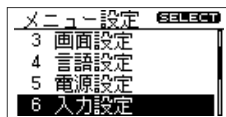
- 録音を中止する場合、［ ■ ］を押すと基本画面に戻ります。このときレベル設定は維持されているので、もう一度［ ● ］を押せば、同じ録音レベルで録音を始めることができます。
- INPUT ［+］［−］操作時に、録音レベルが切り替わるタイミングで小さなノイズが聞こえることがありますが、故障ではありません。

リハーサル機能を使う

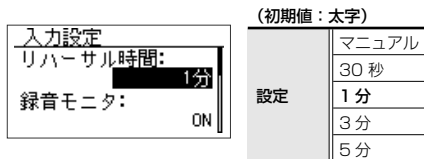
リハーサル機能を使って、指定した時間内に入力された音声から最適な録音レベルを自動的に設定することができます。

ご注意!

AGC が ON のときは、リハーサル機能はつかえません。

1. **[MENU] を押して「メニュー」画面を表示させ、[►/II] ／ [■] で「入力設定」を選び、[●] を押します。**

2. **[►/II] ／ [■] でリハーサル時間の行にカーソルを合わせ、[|◄◄] ／ [►►|] で時間を設定します。**

（初期値：太字）

設定	マニュアル
	30 秒
	1 分
	3 分
	5 分

3. **[MENU] を 2 回押して基本画面に戻ります。**

4. **録りたい音源にマイクを向け、[REHEARSAL] を押します。**

設定したリハーサル時間内の最大の音量に合わせて録音レベルが自動的に設定されます。また、同時に適切なマイクの感度が検出されます。設定が終われば録音待機状態になります。
リハーサル時間をマニュアルに設定している場合は、再度 [REHEARSAL] を押してリハーサルを終了します。

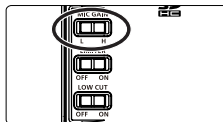
リア・パネルの [GAIN] スイッチの設定が、検出されたマイクの感度と異なる場合は、以下のようなメッセージが表示されます。メッセージに従ってスイッチを切り替えてください。

参照
『マイクの感度を設定する』（P.47）

メモ
設定したリハーサル時間中に再度［REHEARSAL］ボタンを押すと、その時点までに入力された最大音量に合わせて録音レベルが設定されます。

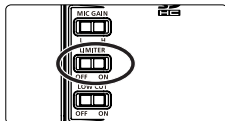
ヒント
楽器演奏やボーカルなど、音楽の演奏を録るときは楽曲の一番音量の大きい部分を演奏するとよいでしょう。

マイクの感度を設定する

録音対象の音の大きさに合わせてリア・パネルの［MIC GAIN］スイッチでマイクの感度を切り替えます。

H は高感度、L は低感度です。大きな音を録るときは Lに設定、小さな音を録るときはH に設定します。

参照
『用途にあわせた録音の設定』（P.58）

リミッターまたは AGC を使う

リア・パネルの［LIMITER］スイッチでリミッターまたは AGC（オート・ゲイン・コントロール）のオン／オフを切り替えます。通常は OFF に設定します。

リミッターは入力された音が大きすぎたときに、録音レベルを適度なレベルまで圧縮して歪みを抑える機能です。

AGC は入力されるレベルが小さいときは大きく増幅し、大きい場合はレベルを抑え、全体をなるべく均等なレベルにして録音します。会議など、遠くの人、近くの人、声の大きい人、小さい人の声を同じ音量で録音することができます。

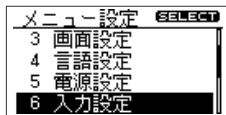
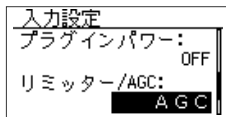
ヒント

リミッター／ AGC をオンにして楽器演奏や音楽を録音すると、演奏の抑揚が均一なレベルに録音され、音楽本来の表現が損なわれてしまいます。「ありのまま」のサウンドを録音したいときは「OFF」に設定してください。

ご注意！

- AGC が ON のときは、手動で録音レベルを設定できません。
- AGC が ON のときは、リハーサル機能はつかえません。

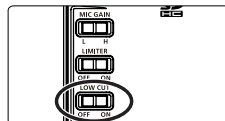
[LIMITER] スイッチの機能を設定する

1. [MENU] を押して「メニュー」画面を表示させ、[►/II] ／ [■] で「入力設定」を選び、[●] を押します。

2. [►/II] ／ [■] でリミッター／ AGC の行にカーソルを合わせ、[|◄◄] ／ [►►|] でリミッターまたは AGC のいずれかを選びます。

3. [MENU] を 2 回押して基本画面に戻ります。

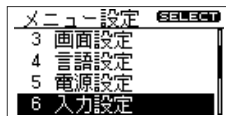
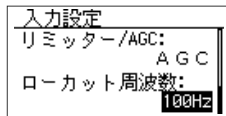
ご注意!

AGC がオンのときは、INPUT [+] [−] は無効になり、録音レベルは手動で調整できません。

低音域をカットする

リア・パネルの [LOW CUT] スイッチを ON に設定すると、特定の周波数以下の低音域をカットします。
通常は OFF に設定します。

野外録音時の強い風による“吹かれノイズ”や車の騒音、機械の運転音、振動など低域成分を分多く含むノイズが気になる場合は、低音域をカットするとノイズが軽減されます。
また、ボーカル録音時の“吹かれノイズ”や、こもった音質が気になる場合も低音域をカットすることにより、すっきりとした音で録音できます。

カットする周波数の設定方法

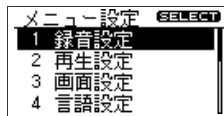
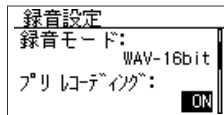
1. **[MENU] を押して「メニュー」画面を表示させ、[►/II] ／ [■] で「入力設定」を選び、[●] を押します。**

2. **[►/II] ／ [■] でローカット周波数の行にカーソルを合わせ、[⏮] ／ [⏭] で値を変更します。**

（初期値：太字）

設定	100Hz
	200Hz
	400Hz

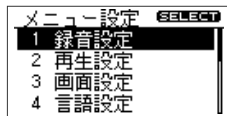
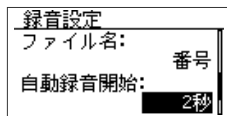
3. **[MENU] を 2 回押して基本画面に戻ります。**

プリレコーディング機能を使う

R-05 には録音ボタンを押す 2 秒前にさかのぼって録音を開始することが可能なプリレコーディング機能が搭載されています。野外での録音など、録りたい音がいつ鳴り始めるかわからないような場面でも、鳴り始めを逃すことなく録音できます。

1. **[MENU] を押して「メニュー」画面を表示させ、[►/II] ／ [■] で「録音設定」を選び、[●] を押します。**

2. **[►/II] ／ [■] でプリレコーディングの行にカーソルを合わせ、[⏮] ／ [⏭] で「ON」を選びます。**

自動録音開始機能を使う

自動録音開始機能を使って、設定した時間が経過したとき、または録音レベルが特定の値以上となったときに、自動的に録音を開始させることができます。

1. **[MENU] を押して「メニュー」画面を表示させ、[►/II] ／ [■] で「録音設定」を選び、[●] を押します。**

2. **[►/II] ／ [■] で自動録音開始の行にカーソルを合わせ、[|◄◄] ／ [►►|] で録音開始までの時間、または自動的に録音を開始する録音レベルを選びます。**

（初期値：太字）

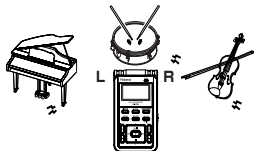
設定	**自動録音を使わない**	**OFF**
	録音開始までの時間	2 秒
		5 秒
		10 秒
	録音を開始するレベル	レベル 1 (-60dB)
		レベル 2 (-30dB)
		レベル 3 (-20dB)

3. **[MENU] を 2 回押して基本画面に戻ります。**

4. **基本画面で [●] を押して REC インジケーターを点滅させます。録音待機状態になります。**

5. **もう一度 [●] を押します。**
設定した時間が経過、または設定した録音レベルを検知したら自動的に録音を開始します。

楽器や声を録音する

内蔵マイクを使う

内蔵マイクはステレオ・タイプのマイクです。
R-05 本体の右側のマイクが右チャンネル（R)、左側が左チャンネル（L）として録音されます。

ご注意!

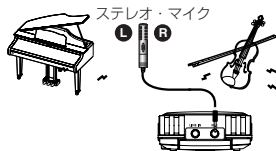
- マイク録音を行う際には、ハウリング（キーンという音）を避けるため外部スピーカーを接続しないでください。
- MIC端子やLINE IN端子にマイクや機器を接続している場合は、内蔵マイクは使用できません。内蔵マイクを使用する場合には、MIC 端子や LINE IN 端子に何も接続しないでください。

メモ

録音する音声をヘッドホンで聴きながら（モニターしながら）録音する場合は、録音時にモニターする設定にしてください。

参照

『R-05 本体の各種設定』（P.89）

外部マイクを使う

R-05 は、ダイナミック・マイクや、パソコンのマイク端子などに接続するタイプのコンデンサー・マイクを使用することができます。

ご注意!

- LINE IN 端子に機器やケーブルが接続されていると MIC 端子からの入力は無視されてしまいます。LINE IN 端子には何も接続していない状態でお使いください。

- マイク録音を行う際には、ハウリングを避けるため外部スピーカーを接続しないでください。
- 他の機器と接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞った状態で電源を切ってください。

使用するマイクに合わせた設定

外部マイクタイプの設定

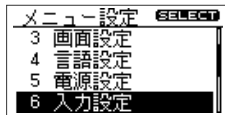
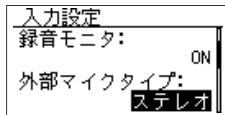
モノラル／ステレオの設定をします。MIC 端子に接続するマイクに合わせて切り替えます。

（初期値：太字）

設定	**ステレオ**	外部マイクの種類がステレオの場合（P.92）。
	モノラル	外部マイクの種類がモノラルの場合（P.92）。

メモ

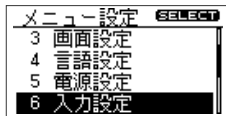
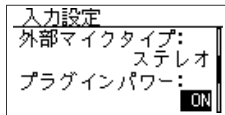
モノラル・マイク使用時に、外部マイクのタイプをステレオに設定して録音すると、L チャンネルしか録音されません。モノラルに設定すると、L と R チャンネルに同じ音（ステレオ）が録音されます。

1. [MENU] を押して「メニュー」画面を表示させ、[►/II] ／ [■] で「入力設定」を選び、[●] を押します。

2. [►/II] ／ [■] で外部マイクタイプの行にカーソルを合わせ、[|◄◄] ／ [►►|] でモノラル／ステレオを選びます。

プラグインパワーの設定

使用するマイクがプラグイン・パワード・マイクの場合は「ON」に、電池またはプラグイン・パワーから電源供給が不要なマイクの場合は「OFF」に設定します。

（初期値：太字）

設定	**OFF**	ダイナミック・マイクや電池内蔵タイプのコンデンサー・マイク
	ON	プラグイン・パワード・タイプのコンデンサー・マイク

1. **[MENU] を押して「メニュー」画面を表示させ、[►/II] ／ [■] で「入力設定」を選び、[●] を押します。**

2. **[►/II] ／ [■] でプラグインパワーの行にカーソルを合わせ、[|◄◄] ／ [►►|] で ON ／ OFF を選びます。**

ご注意!

ダイナミック・マイクや電池内蔵マイクを接続するときは、必ずプラグインパワーを OFF にしてお使いください。間違った設定で使用すると故障するおそれがあります。

ダイナミック・マイクとは
耐久性に優れ、ボーカルや楽器の録音に適しています。電源供給の必要がありません。

コンデンサー・マイクとは
感度が高く、生楽器や会議の声など小さい音の録音に適しています。電池またはプラグイン・パワーから電源の供給が必要です。

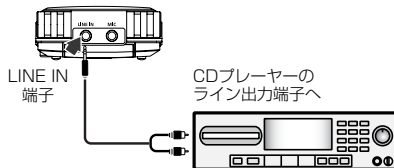
カセットや CD の音を録音する

LINE IN 端子を使う

R-05はマイクを使った楽器演奏の録音やボイス・メモとして使う以外に、LINE IN 端子を使ってカセットやCDの音を録音することもできます。

ご注意!

- LINE IN 端子に機器やケーブルを接続すると、マイク入力は自動的にオフになります。LINE IN 端子と MIC 端子から音声を入力した場合には、ライン入力の音声のみが録音されます。
- 抵抗入りの接続ケーブルを使用すると、LINE IN 端子に接続した機器の音量が小さくなることがあります。このときは、抵抗の入っていない接続ケーブルをご使用ください。
- レコード・プレーヤーを接続して録音する場合には、別途フォノイコライザーが必要です。

ここでは CD プレーヤーからの音を R-05 で録音する場合を例として説明します。

1. **CD プレーヤーを接続します。**

   CD プレーヤーのライン出力端子と R-05の LINE IN 端子をオーディオ・ケーブルで接続します。

2. **録音レベルを調整します。**

   CD プレーヤーで録音したいファイルを再生しながら、録音レベルを調整します。

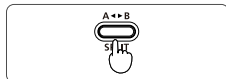
   録音レベルを調整したら、録音したいファイルを頭出ししておきましょう。

録音中にファイルを分割する

録音中に、ファイルを分割することができます。
ファイルを分割すると、分割した箇所から再生することができます。
長時間にわたって連続録音をするときに、後で検索する必要がありそうな箇所で分割しておくと便利です。

手動で分割する

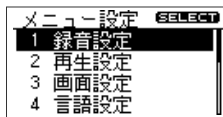
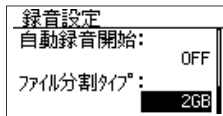
1. 録音を始めます。

2. 分割したい場所で［SPLIT］を押します。

ボタンを押した箇所でファイルが分割されます。

3. ［ ■ ］を押して、録音を停止します。

自動で分割する

R-05 は、録音中のファイルが設定したサイズに達したとき、または録音レベルが設定した値以下になったときに、自動的にファイルを分割します。
初期設定ではファイルサイズが 2GB に達するとファイルを自動分割するように設定されています。

1. ［MENU］を押して「メニュー」画面を表示させ、［ ►/II ］／［ ■ ］で「録音設定」を選び、［ ● ］を押します。

2. ［ ►/II ］／［ ■ ］でファイル分割タイプの行にカーソルを合わせ、［ |◄◄ ］／［ ►►| ］で自動分割するファイルサイズ、または録音レベルを選びます。

（初期値：太字）

設定	ファイルを自動分割するサイズ	64MB
		128MB
		256MB
		512MB
		1GB
		2GB
	ファイルを自動分割する録音レベル	レベル 1 (-60dB)
		レベル 2 (-30dB)
		レベル 3 (-20dB)

3. [MENU] を 2 回押して基本画面に戻ります。

ご注意!

- SD カードによっては、まれに録音が途切れることがあります。最新の動作確認情報は、ローランド・ホームページ（http://roland.jp/info/R-05/）をご覧ください。
- R-05 で再生するときに前後のファイルを途切れることなく再生（ギャップレス再生）することはできません。
- ファイルの分割は、1 ファイルに2 秒以上録音された場合に可能になります。2 秒以下の間隔でファイルの分割を行うことはできません。

用途にあわせた録音の設定

ここではさまざまな場面での録音に適した録音設定の例をご紹介します。

アコースティック楽器の録音

- 録音が左右どちらか一方のチャンネルに片寄らないように、録りたい楽器にまっすぐマイクを向けます。音が鳴っている部分に接近すると明るい音でくっきり録音できます。遠ざけると部屋の響きも録音されて、柔らかい音になります。また、別売のマイク・スタンド・アダプターを使って、R-05 を市販のマイク・スタンドに取り付けることができます。
- 楽器の音量に応じて［MIC GAIN］スイッチを設定します。
- 鑑賞用に良い音で残す場合はWAVで録音しましょう。CD を作成するにはサンプリング周波数を 44.1kHz、録音モード（P.42）を WAV-16bit に設定します。練習やアイデアのメモなどを録るには MP3-128kbps で録音するとよいでしょう。
- 録音モードを WAV+MP3 にしておけば、高音質の保存用と小容量の配付用のファイルを同時に録音できます。

お勧めの設定

リア・パネルのスイッチ

MIC GAIN	音の大きい楽器はL、小さい楽器はH
LIMITER	OFF
LOW CUT	OFF

「メニュー」画面の設定

録音設定	サンプルレート	CD にする場合は 44.1kHz
	録音モード	WAV-16bit または WAV+MP3

ボーカルの録音

- 録音が左右どちらか一方のチャンネルに片寄らないように、マイクを顔の真正面に向けます。歌っている間にできるだけ顔を左右に動かさないように注意しましょう。
- “吹かれノイズ”が気になる場合は、マイクを真正面より少し下から狙うとノイズが軽減されます。また、付属のウインド・スクリーンを使うのも効果的です。
- こもった音質が気になる場合は LOW CUT（P.49）を ON にするとすっきりした音色になり、同時に“吹かれノイズ”も軽減されます。100Hz以下をカットするとよいでしょう。
- CD や高音質での保存用の音源にする場合は WAV、作曲用のメモなどの場合は MP3 で録音するとよいでしょう。
- 録音した音にリバーブ効果をかけて試聴することができます。ボーカルにはプレート・リバーブが使われることが多いですが、設定はお好みでいろいろ試してみるとよいでしょう。

参照

『再生時にリバーブ効果をかける』（P.68）

お勧めの設定

リア・パネルのスイッチ

MIC GAIN	H
LIMITER	OFF
LOW CUT	“吹かれノイズ”やこもった音色が気になるときは ON

「メニュー」画面の設定

録音設定	サンプルレート	CD にする場合は 44.1kHz
	録音モード	WAV-16bit または MP3-128kbps
再生設定	リバーブタイプ	PLATE
	リバーブの深さ	5 ～ 10
入力設定	ローカット周波数	100Hz

バンド演奏の録音

- バンド演奏の音は、日常生活の音より大音量です。［MIC GAIN］スイッチはLに設定しましょう。
- 録音レベルを設定するときは、楽曲の一番音量が大きい部分を演奏して、レベルを調整します。リハーサル機能を使えば最適な録音レベルを自動的に設定することができます。
- 練習スタジオでは、楽器が部屋の周囲から中央に向かって配置されているのが一般的です。各楽器を均等に録るためにはスタジオの中央、高さはテーブルくらいに設置すると最適な音質で録音できます。床に設置すると、低音ばかりのこもった音になり、高い位置では低音が拾えず、薄い音になります。
- 自動録音開始機能をONにしておけば、[●] を押さなくても、演奏を始めると同時に自動的に録音を開始できます。レベル1～レベル3に設定します。
- 録音モードをWAV+MP3にしておけば、高音質の保存用マスターと小容量の配付用のファイルを同時に録音できます。

お勧めの設定

リア・パネルのスイッチ

MIC GAIN	L
LIMITER	OFF
LOW CUT	OFF

「メニュー」画面の設定

録音設定	サンプルレート	CDにする場合は 44.1kHz
	録音モード	WAV-16bit または WAV+MP3
	自動録音開始	レベル1～レベル3
入力設定	リハーサル時間	30秒～5分

野外での録音

- 対象物に応じて［MIC GAIN］スイッチを設定します。野鳥や虫の泣き声、川のせせらぎなど、比較的音の小さい自然の音を録音するときは H に設定、列車の通過音や飛行機の離陸音などの大音量を近距離で録る場合は L に設定します。
- 風による“吹かれノイズ”が気になるときは付属のウインド・スクリーンを本体にかぶせると軽減されます。さらに“吹かれノイズ”は低音成分が多いので［LOW CUT］を ON にすることにより軽減できます。ただし、低音成分をカットしてしまうので、重低音の迫力を残したい音には適しません。
- 対象物に近づけない場合、外部マイクを使えば手の届かないところにもマイクを向けることができます。別売のステレオ・マイク (CS-15) は、狙ったポイントの周辺だけを集音する特性があるので、録りたい音を逃さず録音できます。
- プリレコーディング（P.50）を ON に設定しておくと、［ ● ］を押した2 秒前にさかのぼって録音を開始してくれるので、絶好のタイミングを録り逃しません。
- 映像と合わせて DVD 作成を行う場合はサンプリング周波数を 48kHz に設定します。

お勧めの設定

リア・パネルのスイッチ

MIC GAIN	小さい音は H、大きい音は L
LIMITER	OFF
LOW CUT	風による“吹かれノイズ”が気になる場合は ON

「メニュー」画面の設定

録音設定	サンプルレート	44.1 または 48.0
	録音モード	WAV-16bit または MP3-128kbps
	プリレコーディング	ON
入力設定	外部マイクタイプ	マイクのタイプに合わせて設定（CS-15 使用時はステレオ）
	プラグインパワー	マイクのタイプに合わせて設定（CS-15 使用時は ON）
	ローカット周波数	100Hz

会議の録音

- 参加者全員の発言を均等に録れるように、なるべくテーブルの中央に設置します。日常会話程度の音量を録るには［MIC GAIN］スイッチを H に設定します。
- さらにAGCをONにすると発言者の声の大きさに応じて自動的にレベルが調整され、声の小さい人や遠くの人の声もバランス良く記録を残すことができます。ただし、AGC（P.48）をONにすることにより、エアコンの運転音など、かすかな低音の騒音が増幅され、バックグラウンドに不快な低音ノイズが混じってしまうことがあります。この場合は［LOW CUT］をONにすると、不要な低音ノイズが軽減され、人の会話がよりはっきり聞き取れるようになります。
- 参加者の発言を確実に記録するのが目的なので、音質の良し悪しはあまり重要ではありません。長時間の録音を小容量でおさめるには MP3 で録音するのが良いでしょう。

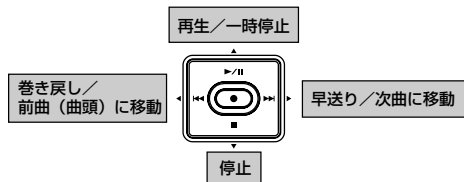
お勧めの設定

リア・パネルのスイッチ

MIC GAIN	H
LIMITER	ON
LOW CUT	ON

「メニュー」画面の設定

録音設定	サンプルレート	44.1kHz
	録音モード	MP3-128kbps 以下
入力設定	リミッター /AGC	AGC
	ローカット周波数	200Hz

再生の基本操作

1. 基本画面を表示させます。

2. [⏮] ／ [⏭] で再生したいファイルを選びます。

メモ

ディスプレイに「No Song」と表示されている場合は、現在のフォルダ内に R-05 で再生できるファイルがないことを意味します。「No Card」と表示されている場合は、SD カードがセットされていないことを意味します。

3. [▶/II] を押してファイルを再生します。

再生中に［ ⏪ ］を押し続ける間は巻き戻し、［ ⏩ ］を押し続ける間は早送りをします。それぞれのボタンから手を離すと再び再生が始まります。

ご注意！

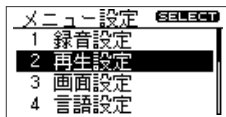
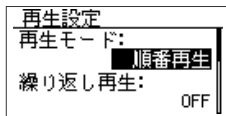
再生中に巻き戻しや早送りの操作を行うとき、SD カードの種類によっては、データの読み込み速度が間に合わず、巻き戻しや早送りの動作が停止してしまうことがあります。
このようなときは、いったん［ ■ ］を押して再生を終了してください。その後、もう一度再生を行ってください。

4. VOL［+］［−］で音量を調整します。

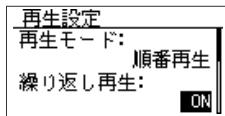
5. [■] を押して再生を終了します。

再生モードと繰り返し再生の設定

ファイルの再生のしかたを設定します。1 番から順番通りに再生する基本的な再生の他、選択した1 ファイルのみを再生したり、ファイルの順番を自動的に入れ替えて再生（シャッフル再生）したりすることができます。

1. **[MENU] を押して「メニュー」画面を表示させ、[►/II] ／ [■] で「再生設定」を選び、[●] を押します。**

2. **[⏮] ／ [⏭] で再生モードを選びます。**

（初期値：太字）

設定	
設定	1 曲再生（1 ファイルを再生）
	順番再生（順番通りに再生）
	シャッフル（シャッフル再生）

3. **[►/II] ／ [■] で繰り返し再生の行にカーソルを合わせ、[⏮] ／ [⏭] で繰り返し再生のオン／オフを設定します。**

（初期値：太字）

設定	
設定	**OFF**（繰り返し再生しない）
	ON（繰り返し再生する）

メモ

各設定の組み合わせは以下のとおりです。

（初期値：太字）

再生モード	繰り返し再生	説明
1 曲再生	OFF	1 ファイルのみ再生後停止
	ON	1 ファイルを繰り返し再生
順番再生	**OFF**	**順番通り再生後停止**
	ON	順番通り繰り返し再生
シャッフル	OFF	シャッフル再生後停止
	ON	シャッフルした順番で繰り返し再生

メモ

シャッフルの設定で繰り返し再生を ON にした場合、ひととおりシャッフル再生が終了した後に同じファイル順で再生を繰り返します。順番をシャッフルしなおすには一度［ ■ ］を押して、もう一度［ ►/II］を押してください。

ファイル順について

ファイル順は、以下の文字列の規則に従って順番に表示されます。録音した順番ではありません。

（スペース）! # $ % & ' ( ) + , - . 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ; = @

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z] ^ _ `

a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z { }

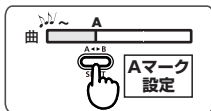
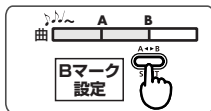
2 バイト文字

- 「.」で始まるファイル名は、表示されません。
- ファイルの拡張子が .WAV か .MP3 以外のファイルは、表示されません。
- ディスプレイに表示されているファイル名は、MP3 の ID3 タグには対応していません。

ファイルの一部分を繰り返し再生する

ファイルの中で指定した一定区間を繰り返し再生します(AB リピート)。気になるところを何度でも繰り返し再生してチェックすることができます。

1. ［ ►/II］を押して、ファイルを再生します。

2. 開始地点（A マーク）を設定します。
再生中に、［ A◂▸B ］を一度押します。その時点がリピート再生の開始地点（A マーク）となります。

3. 終了地点（B マーク）を設定します。
再度［ A◂▸B ］を押します。その時点がリピート再生の終了地点（B マーク）となります。

設定の解除方法

- A マーク、B マークが設定されている状態で［A◂▸B］を押すと、A マーク、B マークの設定が解除されます。
- 再生を止めるときは、［ ■ ］を押してください。リピート再生の設定（A マーク、B マーク）は記憶されたまま再生が停止します。

メモ

- A マークを設定した後、B マークを設定しないでファイルが最後まで再生されてしまったときには、A マークとファイルの終わりまでの間を繰り返し再生します。
- ［ ◂◂ ］／［ ▸▸| ］で他のファイルを選ぶと、リピートの設定は解除されます。

再生する速度を変える

ピッチを変えずに速く再生したり、ゆっくり再生したりすることができます。

1. [SPEED] を押します。

画面下部に「SPD」と反転表示され、再生速度が変わります。

もう一度 [SPEED] を押すと、元の速度に戻ります。

ご注意!

- リバーブ効果（P.68）をかけているときは、再生速度を変えることはできません。
- サンプリング周波数が 88.2 kHz、96 kHz のファイルを再生しているときは、再生速度を変えることはできません。
- 再生速度を大幅に変えると、音質が変わります。

再生速度を選ぶ

1. [SPEED] を数秒間押します。

現在設定されている再生速度の値が表示されます。

2. 再生速度を設定します。

再生速度が表示されている間に [⏮] ／ [⏭] を押すと、再生速度の値が変わります。

（初期値：太字）

設定	50、60、**70**、80、90、110、120、130、140、150（%）

再生時にリバーブ効果をかける

R-05 はファイルを再生するときに、リバーブ効果をかけることができます。リバーブとは大きなホールなどで演奏しているような残響を加えるエフェクト（効果）です。

ご注意！

- リバーブをかけた音を録音することはできません。また録音中のモニター音にリバーブをかけることはできません。
- サンプリング周波数が 88.2kHz、96kHzのファイルの再生にはリバーブ効果はかかりません。
- 再生速度を変えているとき（P.67）はリバーブ効果はかかりません。

リバーブ効果をかける

1. [REVERB] を押します。

画面に「REV」が反転表示され、リバーブ効果がかかります。

もう一度［REVERB］を押すと、リバーブ効果が解除されます。

リバーブの種類を変える

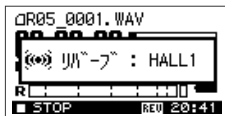
リバーブの種類を設定します。設定によってさまざまな空間をシミュレーションできます。

種類	効果
HALL1	コンサートホールのでの残響音をシミュレーションしたリバーブです。 マイルドで広がりのある長めの残響音が得られます。
HALL2	ホール 2 はホール 1 より短めの残響音になります。
ROOM	室内の残響音をシミュレーションしたリバーブです。ライブハウスやスタジオをイメージした明るい音色の短めの残響音が得られます。
PLATE	プレート・リバーブ（金属板の振動を利用したリバーブ・ユニット）をシミュレーションしたリバーブです。高域が伸びた金属的な響きが得られます。

1. [REVERB] を数秒間押します。

リバーブの種類が表示されます。

2. リバーブの種類が表示されている間に [⏮] / [⏭] を押します。

リバーブの種類が変わります。

再生可能なファイルの種類

R-05 では以下のファイルを再生することができます。

サンプリング周波数（kHz）		サンプル・サイズ（bits）
WAV	32.0、44.1、48.0、88.2、96.0	16、24

サンプリング周波数（kHz）		ビットレート
MP3	32.0、44.1、48.0	32 ～ 320kbps、VBR

VBR とは

Variable Bit Rate（可変ビットレート）のことで、音の密度が低い場面ではビットレートを低くし、密度が高い場面ではビットレートを高くします。

パソコンと接続する

R-05とお持ちのパソコンをUSBケーブルで接続することで、R-05 のSD カードの中にあるファイルをパソコンに取り込み、音楽ソフトウェアなどで使用することができます。また、パソコンの中にあるファイルを R-05に送って、R-05 で再生させることもできます。

参照
『再生可能なファイルの種類』(P.69)

R-05 とパソコンを接続する

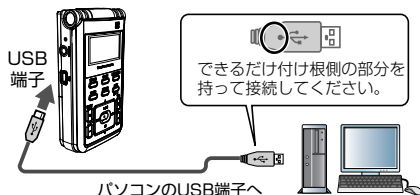
1. パソコンを起動します。

2. R-05 の SDカード・スロットに、SD カードが差し込まれていることを確認します。

参照
『SDカードをセットする』(P.32)

3. R-05 の電源を入れます(P.26)。

4. [FINDER]か[MENU]のいずれかを数回押して基本画面を表示させます。

5. 付属の USB ケーブルで R-05 とパソコンを接続します。

ご注意!

- USB ケーブルをパソコンに接続する際は、プラグの金属部分に触れないようにし、できるだけ付け根部分を持って接続してください。
- SD カードがセットされていない状態でパソコンと接続すると、R-05 のディスプレイに「No Card」と表示されます。
- 「メニュー」画面のときや再生、録音中にはパソコンと接続しても認識されません。いったん R-05 とパソコンを接続している USB ケーブルを外し、手順 3 に戻ってやりなおしてください。

- パソコンと接続された状態「USB」画面では、各部の機能は使用できません。ボタンやスイッチなどを操作しても無視されます。
- パソコンに「この種類のファイルのディスクを挿入したり～」と表示された場合は［キャンセル］をクリックします。

しばらくすると R-05 がパソコンに認識され、R-05 のディスプレイには「USB」画面が表示されます。

R-05 の SD カードは、パソコンからは次のように認識されます。

Windows	マイコンピューターやエクスプローラーからではリムーバブルディスクなどの名前で表示されます
Mac OS	NO NAME などの名前でデスクトップに表示されます。

6. WAV ファイルおよび MP3 ファイルを R-05 からパソコンへコピーしたり、パソコンから R-05 へコピーできます。

パソコン上でファイルをドラッグ＆ドロップしてファイルをコピーします。

パソコンとの接続を解除する

パソコンと R-05 の接続を解除します。必ず、次の手順に従って接続を解除し、USB ケーブルを抜いてください。

ご注意!
R-05 がパソコンに接続されている状態のときに R-05 の電源を切ったり、USB ケーブルや SD カードを抜いたりしないでください。

Windows Vista/XP/2000/Me

1. 「ハードウェアの（安全な）取り外し」ダイアログを表示させます。

Windows のタスクトレイ内にあるハードウェアの（安全な）取り外し アイコンをダブルクリックします。

2. 表示されたハードウェア デバイスの欄から、R-05 を示す項目を選びます。

Windows Vista	USB 大容量記憶装置
Windows XP、Windows 2000	USB 大容量記憶装置デバイス
Windows Me	USB ディスク

3. ダイアログ中の［停止］をクリックします。

4. ［OK］をクリックします。

ハードウェア デバイスの停止ダイアログが表示されたら、R-05 の SD カードを示す項目を選択して［OK］をクリックします。

5. 接続を解除します。

「USB 大容量記憶装置デバイス（または USB ディスク）は、安全に取り外すことができます。」と表示されたら、R-05 とパソコンを接続している USB ケーブルから取り外すことができます。

Windows 7

1. **Windows のタスクトレイ内にある** ⏏ アイコンをクリックし、続いて アイコンをクリックします。

2. **「WAV/MP3 Recorder R-05 の取り出し」というメッセージをクリックします。**

3. **「ハードウェアの取り出し」というメッセージが表示されたら R-05とパソコンを接続している USB ケーブルから取り外すことができます。**

Mac OS

1. **「NO NAME」を Dock のゴミ箱にドラッグします。**

※ Mac OS 10.4の画面を使用しています。

※ お使いの環境によって表示内容が異なる場合があります。

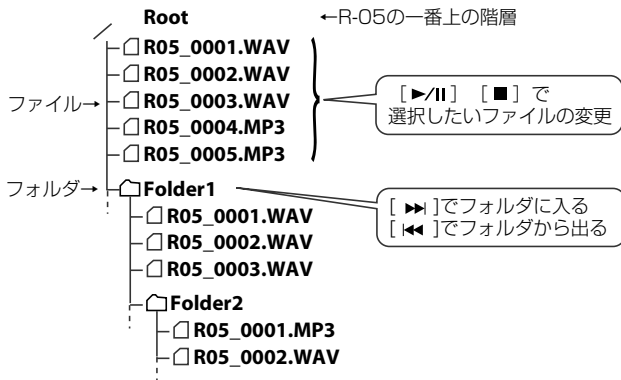
Dock 右端のゴミ箱が表示されている場所にドラッグすると、表示がゴミ箱から ⏏ に変わり、接続を解除することができます。

2. **接続を解除します。**

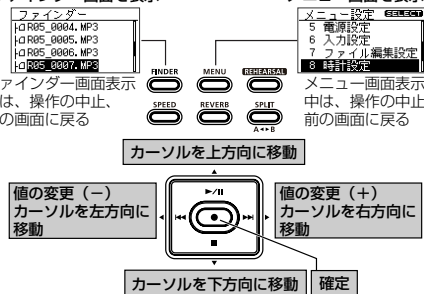
デスクトップから「NO NAME」または「名称未設定」のアイコンが消えたら、R-05 とパソコンを接続している USB ケーブルから取り外すことができます。または、R-05 の電源を切ることができます。

ファイルやフォルダを扱う

R-05 は SD カードにオーディオ・ファイルを保存します。
「ファインダー」画面では、これらのファイルを一覧し、削除やコピーなどファイルを操作するさまざまな機能があります。またフォルダを作成することもできるので、ファイルをフォルダに移動して管理することも可能です。

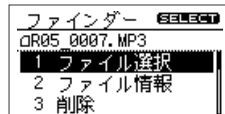
R-05 の SD カードのファイル構成

メモ

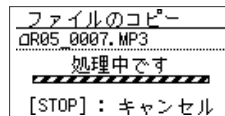
- ファイル名やフォルダ名は変更することができます。
→『ファイル名を変更する』(P.79)
- フォルダは任意の場所に作ることができます。
→『フォルダを作成する』(P.87)

基本操作

1. **[FINDER] を押して「ファインダー」画面を表示させ、[►/II] ／ [■] でファイルまたはフォルダを選び、[●] を押します。**

メモ

フォルダの中（下位フォルダ）を選択したいときには、フォルダを選んでから [►►|] を押します。
また、上位フォルダを選択するときには [|◄◄] を押します。

2. **[►/II] ／ [■] で機能を選び、[●] を押します。**

ご注意!

以下のような画面が表示されているときは電源を切ったり、SD カードを抜いたりしないでください。

「ファインダー」画面操作一覧

機能	選択の対象	効果	手順
ファイル選択	ファイル	ファイルを選択して基本画面に移動します。	P.77
	フォルダ	フォルダを選択して基本画面に移動します。	
ファイル情報	ファイル	ファイルの情報を表示します。また、ファイル名を保護します。	P.77
	フォルダ	フォルダの情報を表示します。	
削除	ファイル	ファイルを削除します。	P.78
	フォルダ	フォルダを削除します。	
ファイル名変更	ファイル	ファイル名を変更します。	P.79
	フォルダ	フォルダ名を変更します。	
ファイル移動	ファイル	ファイルを移動します。	P.80
コピー	ファイル	ファイルをコピーします。	P.81
分割	ファイル	ファイルを分割します。	P.82
結合	ファイル	ファイルを結合します。	P.82
トリム処理	ファイル	ファイルの先頭と末尾を削除します。	P.84
MP3 ファイル作成	ファイル	WAV ファイルを MP3 に変換します。	P.85
ファイル修復	ファイル	ファイルを修復します。 ※ このメニューは、R-05 が壊れたファイルを認識した場合にのみ表示されます。	P.86
フォルダ作成	フォルダ、ディレクトリ	新規フォルダを作成します。	P.87

ファイルを開く

録音済みのファイル一覧から、ファイルを選択して再生したいときなどにこの操作を行います。

またフォルダを選択すると、現在位置が選択したフォルダに移動し、基本画面では選択したフォルダ内のファイルが選択できるようになります。選択したフォルダ内に録音することもできます。

1.「ファインダー」画面でファイルまたはフォルダを選びます。

2.「ファイル選択」を選びます。

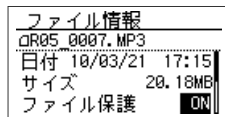
ファイルまたはフォルダが選択されて基本画面に戻ります。

ファイル情報を見る

1.「ファインダー」画面でファイルまたはフォルダを選びます。

2.「ファイル情報」を選びます。

情報が表示されます。

ファイル情報
R05_0007.MP3
日付 10/03/21 17:15
サイズ 20.18MB
ファイル保護 ON

表示される情報	ファイルまたはフォルダ名
	日付（作成日付）
	書込禁止 （プロテクトのオン／オフ）
	タイプ（録音モード）
	サンプルレート（サンプリング周波数）
	サイズ

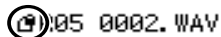
ファイルを保護する（Protect）

誤ってファイルを消したり名前を変更したりしないように、ファイルを保護する設定を行います。

［ ⏮ ］／［ ⏭ ］でオン／オフを切り替えます。

メモ

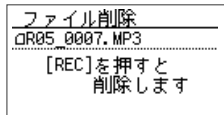
保護をオンにすると、アイコンに鍵マークがつきます。

05 0002.WAV

3. ［FINDER］を3 回押して基本画面に戻ります。

ファイルを削除する

1. 「ファインダー」画面でファイルまたはフォルダを選びます。

2. 「削除」を選びます。

3. 確認の画面が表示されたら［ ● ］を押して確定します。

メモ

中止（キャンセル）する場合は、［ ● ］を押す前に［FINDER］を押してください。

4. ［FINDER］を押して基本画面に戻ります。

ファイル名を変更する

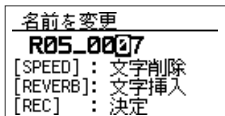
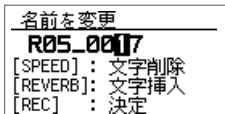
1.「ファインダー」画面でファイルまたはフォルダを選びます。

2.「ファイル名変更」を選びます。

3. [⏮] ／ [⏭] でカーソルを変更したい文字の位置に合わせます

```
名前を変更
 R05_0007
[SPEED] : 文字削除
[REVERB]: 文字挿入
[REC]   : 決定
```

4. [▶/II] ／ [■] で文字を変更し、[●] を押して確定します。

```
名前を変更
 R05_0017
[SPEED] : 文字削除
[REVERB]: 文字挿入
[REC]   : 決定
```

メモ

- R-05本体でファイル名が変更できるのは、ASCII 文字 (英数半角) のファイル名のみです。日本語など2 バイト文字が含まれたファイル名は変更できません。

扱える文字

(スペース)! # $ % & ' ( ) + , - . 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ; = @

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z] ^ _ `

a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z { }

- [REVERB] で文字の挿入、[SPEED] で文字の削除を行います。
- 中止する場合は、[●] を押す前に [FINDER] を押してください。
- 同じ名前がすでに存在する場合は、「すでに存在するファイルです」と表示されます。違う名前に変更してください。

ファイルを移動する

1. **「ファインダー」画面でファイルを選びます。**

2. **「ファイル移動」を選びます。**

3. **[►/II] ／ [■] で移動先を選び、[●] を押します。**

```
ファイルの移動
R05_0007.MP3
/ Root
└NewFolder
[REC] で実行します
```

メモ

- 「Root」を選ぶと R-05 の一番上の階層にファイルが移動します。フォルダを選ぶと、フォルダの中にファイルが移動します。
- フォルダの中（下位フォルダ）のファイルを選択したいときには、フォルダを選んでから、[►►I] を押します。また、上位フォルダを選択するときには [I◄◄] を押します。
- 中止する場合は、[●] を押す前に [FINDER] を押してください。

参照

『R-05 の SD カードのファイル構成』（P.74）

ご注意!

SD カードの空き容量が足りないときは、移動操作ができません。

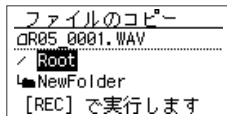
4. **[FINDER] を押して基本画面に戻ります。**

ファイルをコピーする

1.「ファインダー」画面でファイルを選びます。

2.「コピー」を選びます。

3.［ ►/II］／［ ■ ］でコピー先を選び、［ ● ］を押します。

メモ

- 「Root」を選ぶと R-05 の一番上の階層にファイルをコピーします。フォルダを選ぶと、フォルダの中にファイルをコピーします。
→『R-05の SD カードのファイル構成』(P.74)
- フォルダの中（下位フォルダ）を選択したいときには、フォルダを選んでから、［ ►►I ］を押します。また、上位フォルダを選択するときには［ I◄◄ ］を押します。
- 中止する場合は、［ ● ］を押す前に［FINDER］を押してください。

4.［FINDER］を押して基本画面に戻ります。

ご注意!

同じフォルダ内にファイルをコピーすると、コピー元のファイル名の後に「-1」がついたファイルが作成されます。

ファイルを分割する

1. 「ファインダー」画面でファイルを選びます。

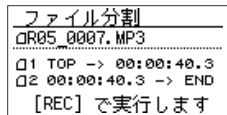
2. 「分割」を選びます。

3. [►/II] ／ [■]、[|◄◄] ／ [►►|] を使って再生や早送り、巻き戻しをしながら、分割したい位置を探します。分割する位置が決まったら、[●] を押します。

ファイル分割
R05_0007.MP3
00:00:40.3
[REC]：ポイント決定
■ STOP　REV 21:58

4. 確認の画面が表示されたら [●] を押して確定します。

ファイル分割
R05_0007.MP3
1 TOP -> 00:00:40.3
2 00:00:40.3 -> END
[REC] で実行します

メモ

オリジナルファイルを残す（P.93）を ON にしている場合、分割されたファイルは、それぞれ新しいファイルとして保存されます。そのとき、編集元のファイル名の後に -1 と -2 が自動的につけられます。編集元のファイルはそのままの状態で残ります。編集元のファイルが R05_0001.WAV という名前の場合は、R05_0001-1.WAV と R05_0001-2.WAV という名前の新しいファイルが作成されます。

ご注意!

SD カードの空き容量が足りないときは、「カードの容量が足りません」のメッセージが表示され、分割ができません。

ファイルを結合する

1.「ファインダー」画面でファイルを選びます。

2.「結合」を選びます。

3. 結合するファイルを選びます。

［ ►/II］／［ ■ ］で、手順 1 で選んだファイルの後ろに結合したいファイルを選び、［ ● ］を押します。

メモ

- オリジナルファイルを残す（P.93）を ON にしている場合、結合したファイルは新しいファイルとして保存されます。結合元のファイル名の後に -1 が自動的につけられます。編集元のファイルはそのままの状態で残ります。結合元のファイルが R05_0001.WAV という名前の場合、結合したファイルは、R05_0001-1.WAV という名前で作成されます。
- サンプリング周波数、および録音モードが異なるファイルは結合することができません。

ご注意!

- SD カードの空き容量が足りないときは、「カードの容量が足りません」のメッセージが表示され、結合ができません。
- 結合後のファイルサイズが2GB を超える場合は、結合をすることができません。

ファイルの不要な部分を消す（トリム）

1. 「ファインダー」画面でファイルを選びます。

2. 「トリム処理」を選びます。

3. ［ ▶/II］／［ ■ ］、［ ⏮ ］／［ ⏭ ］を使ってファイルを残す先頭の位置（Start Point）を探します。位置が決まったら、［ ● ］を押します。

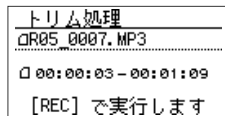
トリム処理
R05_0007.MP3
00:00:03.4
[REC]：ポイント決定
■ STOP REV 22:10

4. ［ ▶/II］／［ ■ ］、［ ⏮ ］／［ ⏭ ］を使ってファイルを残す末尾の位置（End Point）を探します。位置が決まったら、［ ● ］を押します。

トリム処理
R05_0007.MP3
00:01:09.8 P1 00:00:03
[REC]：ポイント決定
■ STOP REV 22:15

5. 確認の画面が表示されたら、［ ● ］を押して確定します。

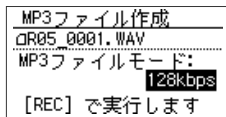
トリム処理
R05_0007.MP3
00:00:03 – 00:01:09
[REC] で実行します

メモ

オリジナルファイルを残す（P.93）を ON にしている場合、先頭と末尾が削除されたファイルは、それぞれ新しいファイルとして保存されます。そのとき、編集元のファイル名の後に -1 が自動的につけられます。編集元のファイルはそのままの状態で残ります。編集元のファイルが R05_0001.WAV という名前の場合は、R05_0001-1.WAV という名前の新しいファイルが作成されます。

MP3 ファイルを作成する

1. 「ファインダー」画面で MP3 に変換したい WAV ファイルを選びます。

2. 「MP3 ファイル作成」を選びます。

3. [⏮] ／ [⏭] で MP3 ファイルモードの値を選び、[●] を押します。

（初期値：太字）

設定	64kbps
	96kbps
	128kbps
	160kbps
	192kbps
	224kbps
	320kbps

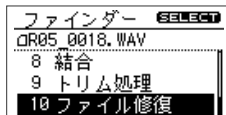
メモ

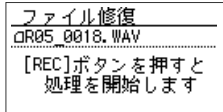
MP3 ファイルを作成した後も、元の WAV ファイルは削除されません。

ファイルを修復する

録音中に過ってアダプターが抜けてしまったり､SD カードを抜いてしまうと、ファイルが壊れ再生 ができなくなります。ファイルのリペア機能を使って修 復することができる場合があります

1. 「ファインダー」画面でファイルを選びます。

2. 「ファイル修復」を選びます。

このメニューは、R-05 が壊れたファイルを認識した場合にのみ表示されます。

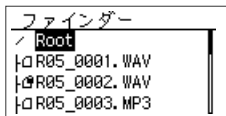
3. 確認の画面が表示されたら。[●] を押して確定します。

中止（キャンセル）する場合は、[●] を押す前に［FINDER］を押してください。

4. ［FINDER］を押して基本画面に戻ります。

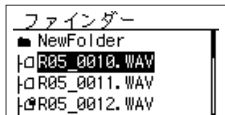
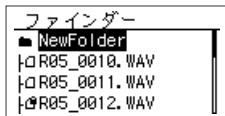
フォルダを作成する

1. 「ファインダー」画面でフォルダを作成したい場所を選びます。

• Root にフォルダを作成するとき

[►/II] ／ [■] で Root を選び、[●] を押します。

• フォルダ内にフォルダを作成するとき

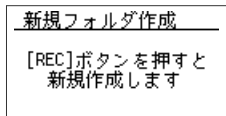
[►/II] ／ [■] で新規作成するフォルダを置きたいフォルダを選びます。

[►►I] を押すとフォルダの中に入ります。

[►/II] ／ [■] で、一番上に表示されているフォルダ名を選び、[●] を押します。

2. [►/II] ／ [■] で「フォルダ作成」を選び、[●] を押します。

3. **［ ● ］を押して確定します。**

確認の画面が表示されます。

```
新規フォルダ作成

[REC]ボタンを押すと
新規作成します
```

4. ［ ● ］を押して確定します。

「New Folder」が作成されます。

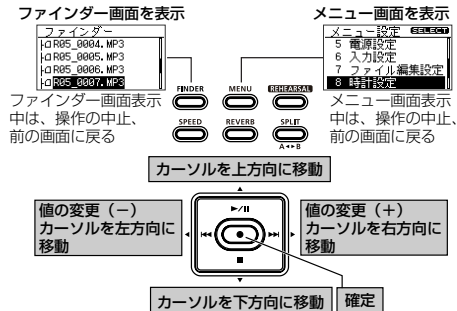
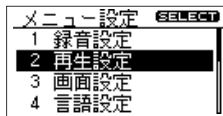
メモ

中止する場合は、［ ● ］を押す前に［FINDER］を押してください。

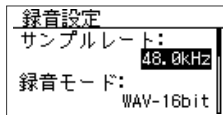
5. **［FINDER］を押して基本画面に戻ります。**

R-05 本体の各種設定

「メニュー」画面では、録音や再生に関する設定や日時の設定など、R-05本体のさまざまな設定を行います。

基本操作

1. **[MENU] を押して「メニュー」画面を表示させ、[►/II] ／ [■] で設定したいカテゴリーを選び、[●] を押します。**

ご注意!

ファイルの再生／録音中は画面を移動することができません。画面を移動したいときは、再生や録音を停止させてください。

2. **[►/II] ／ [■] で設定したいメニューの行にカーソルを合わせ、[⏮] ／ [⏭] で値を設定します。**

設定一覧

カテゴリー	メニュー／効果	値（初期値：太字）
録音設定	**サンプルレート** 録音するときのサンプリング周波数を設定します（P.42）。 ※ 録音モードが MP3 または WAV+MP3 に設定されているときは、88.2 および 96.0 は選択できません。	**44.1**、48.0、88.2、96.0
	録音モード 録音するときのファイルの種類を設定します（P.41）。 ※ サンプルレートが 88.2 または 96.0 に設定されているときは、MP3 および WAV+MP3 は選択できません。	**WAV-16bit**、WAV-24bit、 MP3-64kbps、MP3-96kbps、 MP3-128kbps、MP3-160kbps、 MP3-192kbps、MP3-224kbps 、 MP3-320kbps、 WAV+MP3 (WAV-16bit+MP3-128kbps)
	プリレコーディング プリレコーディングをするかどうかを設定します（P.50）。	**OFF**、ON
	ファイル名 ファイル名の付けかたを設定します。	日付、**番号**
	自動録音開始 自動録音開始機能を設定します（P.51）。	**OFF**、2 秒、5 秒、10 秒、 レベル 1、レベル 2、レベル 3
	ファイル分割タイプ ファイル分割タイプを設定します（P.56）。	64MB、128MB、256MB、512MB、 1GB、**2GB、** レベル 1、レベル 2、レベル 3

カテゴリー	メニュー／効果	値（初期値：太字）
再生設定	**再生モード** ファイルを再生する順番を設定します（P.64）。	1 曲再生、**順番再生**、シャッフル
	繰り返し再生 繰り返し再生を行うかどうかを設定します（P.64）。	**OFF**、ON
	再生速度 ［SPEED］を押したときの再生速度を設定します（P.67）。	50、60、**70**、80、90、110、120、130、140、150
	リバーブタイプ リバーブの種類を選びます（P.68）。	**HALL1**、HALL2、ROOM、PLATE
	リバーブの深さ リバーブの深さを調節します（P.68）。	1 ～ **10**
画面設定	**コントラスト** ディスプレイの文字の明るさを調節します。	1 ～ **5** ～ 10
	バックライト ディスプレイのバックライトの明るさを調節します	OFF、1、**2**、3
	点灯時間 一定期間操作しないときに、ディスプレイのバックライトが暗くなるまでの時間を設定します。（単位：秒）	OFF、2 秒、**5** 秒、10 秒、20 秒
	Rec/Peak LED 点灯時間 に連動して REC インジケーターや PEAK インジケーターも消灯させるかどうかを設定します。	**通常モード**、省電力モード
言語設定	ディスプレイに表示する言語を選びます。	English、**日本語**

カテゴリー	メニュー／効果	値（初期値：太字）
電源設定	**オートパワーオフ** 一定時間操作をしないときに、電源が切れるまでの時間を設定します。（単位：分）	OFF、3 分、5 分、10 分、15 分、**30 分**、45 分、60 分
	電池の種類 使用する電池の種類を設定します。	**アルカリ**、ニッケル水素
入力設定	**リハーサル時間** 指定した時間内に入力された音声から適切な録音レベルを自動設定します（P.45）。	マニュアル、30 秒、**1 分**、3 分、5 分
	録音モニタ 録音時に入力する音声をヘッドホンでモニターする／しないを切り替えます。	OFF、**ON**
	外部マイクタイプ マイク端子に接続するマイクの種類を切り替えます（P.53）。	モノラル、**ステレオ**
	プラグインパワー MIC 端子にプラグイン・パワード・マイク（パソコン接続用などに使用される電源供給が必要なタイプの小型コンデンサー・マイク）を接続するときは ON に設定します。2.5V の電圧が供給されます（P.53）。	OFF、**ON**
	リミッター、AGC [LIMITER] スイッチのはたらきを設定します（P.49）。	**リミッター**、AGC
	ローカット周波数 [LOW CUT] スイッチの周波数を選びます（P.50）。	100 Hz、**200 Hz**、400 Hz

カテゴリー	メニュー／効果	値（初期値：太字）
ファイル編集設定	**オリジナルファイルを残す** ファイル編集後（分割、結合、トリム処理）に編集前のオリジナルファイルを残すかどうかを設定します。	OFF、**ON**
時計設定	日付と時刻を設定します（P.30）。	—
SD カード	**カード情報** SD カードの情報を表示します。	—
	フォーマット SD カードをフォーマットします（P.34）。	—
設定の初期化	R-05 を初期化します。	—

エラー・メッセージ一覧

ディスプレイに表示されるおもなエラー・メッセージについて説明します。

メッセージ	症状
⚠日付／時間を設定してください	内蔵時計用の電力がなくなってしまったため、内蔵時計を初期化しました。 日付と時刻を設定してください。
⚠ バッテリーが低下しています	内蔵電池の残り容量が不足してきました。 電池を交換する必要があります。または AC アダプターでお使いください。
⚠取扱いできないファイルです	R-05 では取り扱うことができないファイル形式のファイルです。
⚠すでに存在するファイルです	同じ名前のファイルもしくはフォルダがあります。 別の名前でファイルやフォルダを作成してください。
⚠ファイルが保護されています	ファイルが保護されています。ファイル保護を OFF にしてから操作してください。
⚠ファイル名が長すぎます	名前が長すぎます。
⚠ファイルシステムエラー	SD カードの状態に問題があります。 R-05 で SD カードをフォーマットしてください。
⚠フォーマットされていません	SD カードがフォーマットされていません。 R-05 で SD カードをフォーマットしてください。
⚠カードの容量が足りません	SD カードの空き容量が不足しています。 ファイルをパソコンにコピーして、SD カードの容量を確保してください。
⚠ファイル名が変更できません	ファイル名に 2 バイト文字が使われている場合、ファイル名は変更できません。

メッセージ	症状
ファイルサイズが大きすぎます	ファイルのデータ容量が大きすぎます。
書き込みが間に合いません	SD カードへの書き込みが間に合いませんでした。 R-05 で動作確認された SD カードをお使いください。 また、ファイルの書き込みや削除を繰り返すことによって、SD カード内のファイルの並びが不規則になり処理能力が落ちたりすることがあります。この場合は、SD カードをフォーマットしなおしてお使いください。
カードがロックされています	SD カードが Lock されています。SD カードを取り出して Lock を解除してからお使いください。
SD カードエラー	SD カードのアクセスで異常が発生しました。 SD カードが壊れている可能性があります。
SD カードを入れてください	SD カードがセットされていません。 SD カードを R-05 にセットしてください。
ホールド中です	［HOLD］スイッチが ON になっているため、操作できません。 操作を行う場合は、［HOLD］スイッチを OFF にしてください。
録音中です	録音中です。 操作したい場合は、録音を中止してください。
再生中です	再生中です。 操作したい場合は、再生を中止してください
AGC が ON です	AGC が ON になっているため、インプット・レベル・ボタンの操作、およびリハーサル機能の使用はできません。操作を行う場合は、AGC を OFF にしてください。

困ったときには

トラブルを解決するためのヒントが書かれています。
また、ホームページでは最新情報が公開されています。あわせてご覧ください。
（http://www.roland.co.jp/support）
それでも解決しない場合には、巻末に記載の『お問い合わせの窓口』へお問い合わせください。

録音に関するトラブル

症状	原因	ページ
録音したマイクの音が L チャンネル（左）側からしか聞こえない	お使いになったマイクがモノラル対応の場合は、L チャンネル（左）側のみに録音されます。 外部マイクを使用する場合には、マイクがステレオかモノラルかを確認してください。 モノラル対応のマイクで両側のチャンネルに録音するには、「メニュー」画面で外部マイクの種類を「MONO」に設定してください。	P.53
録音が開始できない	SD カードの残容量が 16kB 以下になっていると録音できません。録音待機状態にもなりません。	P.93
録音を開始した時点と違う部分から録音されている	プリレコーディングが ON になっていると［ ● ］ボタンを押す 2 秒前にさかのぼって、録音が開始されます。	P.50

症状	原因	ページ
マイクが使えない	MIC 端子か LINE IN 端子にマイク、ケーブル、機器などが接続されていると内蔵マイクは使用できません。内蔵マイクを使用する場合には、他の入力用端子には何も接続しないでください。	P.52
	LINE IN 端子にマイク、ケーブル、機器などが接続されていると MIC 端子からの入力は無視されてしまいます。外部マイクを使用する場合には、LINE IN 端子には何も接続しないでください。 プラグイン・パワード・マイクを使う場合、プラグインパワーを ON にする必要があります。	P.52
	R-05 はファンタム電源のマイクに対応していません。	P.52
録音した音が歪む	インプット・レベルが大きすぎると音が歪んでしまいます。 適切な録音レベルになるように設定してください。	P.44
録音したファイルが再生できない	録音中に過ってアダプターが抜けてしまったり、SD カードを抜いてしまうと、ファイルが壊れ再生ができなくなります。ファイルのリペア機能を使って修復することができる場合があります。	P.86

症状	原因	ページ
録音ができない	SD カードが正しくセットされていないと録音ができません。 電源をいったん切って、SD カードをセットしなおしてください。	P.32
	SD カードがフォーマットされていないと、SD カードが認識されず、ディスプレイに「フォーマットされていません」と表示されます。SD カードをフォーマットしてください。	P.34
	SD カードは R-05 本体でフォーマットしないと正しく動作しません。 パソコンでフォーマットすると、フォーマットの種類が違うことがあります。その場合、録音を開始した直後に停止したり正しく録音ができない場合があります。	P.34
	SD カードの書き込み禁止（LOCK）機能がオンになっていると録音できません。書き込み禁止を解除してください。	P.36
	INPUT［+］［−］で設定した録音レベルが小さすぎると正しく録音できません。録音レベルを正しく設定してください。	P.44
モノラル・マイクで録音したのにステレオのファイルができてしまう	R-05 はステレオで録音を行います。モノラル・マイクを接続した場合、外部マイクタイプを「MONO」に設定しても、左右（L、R）のトラックに同じ音を録音してステレオのファイルを作成します。	P.53
LINE IN 端子に接続した機器の音量が小さい	抵抗入りの接続ケーブルを使用していませんか？抵抗の入っていない接続ケーブルをご使用ください。	P.55
ファイルが勝手に分割されてしまう	R-05 は録音中のファイルのサイズが一定以上になったとき、または録音レベルが特定の値以下になったときに自動的にファイルを分割します。ファイル分割タイプで自動分割するファイルのサイズ、または録音レベルを設定してください。	P.56

再生に関するトラブル

症状	原因	ページ
音が出ない	出力ボリュームが小さすぎると音が聴こえないことがあります。 少しずつ出力ボリュームを大きくしてみてください。	P.63
	ヘッドホンやスピーカーなどが正しく接続されているか確認してください。	P.37
再生できない	ファイル名の付け方が正しいか確認してください。「.」（ピリオド）で始まっているファイルはR-05 では扱うことができません。	P.65
	R-05 では、ファイルの拡張子が .MP3、.WAV のファイルのみ再生することができます。	P.69
	ファイルが破損していると再生できません。ファイル修復機能で修復できる可能性があります。	P.86
意図しないファイルが再生される	ファイルの再生モードがシャッフル再生（シャッフル）になっている可能性があります。このとき、R-05 は次に再生するファイルをランダムに選んで再生します。通常再生（順番再生）に設定しなおしてください。	P.64

その他のトラブル

症状	原因	ページ
電源が入らない	AC アダプターが正しく接続されているか確認してください。電池を使用している場合は、電池の向きが正しいか、浮きがないかなどを確認してください。また、電池の残容量がない場合がありますので、新しい電池を用意してください。	P.29
	AC アダプターや電池の状態に問題がないのに R-05 の電源が入らない場合は、故障している可能性があります。保証書の封筒に記載されている『修理の窓口』へお問い合わせください。	-
パソコンと接続しても認識されない	R-05 に SD カードがセットされていないとパソコンに正しく認識されません。 パソコンのデスクトップ上にアイコンなどが表示されていないときなどは、SD カードのセット状態を確認してください。	P.32
［MENU］を押しても「メニュー」画面にならない	再生中、録音中、録音待機の状態のときは、［MENU］を押しても「メニュー」画面になりません。再生または録音を終了し、その後［MENU］を押してください。	P.38
ディスプレイが暗くなる	電池で使用している場合、点灯時間の設定によっては操作をしていないときにディスプレイが暗くなります。	P.91
勝手に電源が切れてしまう	オートパワーオフの設定によっては、一定時間操作をしていないと自動的に電源が切れます。	P.92
	電池使用時は、電池の残容量が少なくなると電源が切れます。 新しい電池に入れ替えてください。	P.26

症状	原因	ページ
設定した内容が元に戻ってしまった	R-05 をお買い上げ時の状態にすると、「メニュー」画面などで設定した内容がすべて元に戻ります。再度設定してください。	P.89
	設定後、電池切れや AC アダプターが抜けるなどして、電源スイッチを使わずに電源が切れてしまった場合、変更した設定は元に戻ります。再度設定してください。	P.89
USB ケーブルを使ってパソコンに接続したが認識されない	「メニュー」画面のときや再生、録音中にはパソコンと接続しても認識されません。いったん R-05 とパソコンを接続している USB ケーブルを外し、やりなおしてください。	P.70
ファイルを選択しているときにファイル名の表示が遅い	ファイルが壊れていたり、不正なファイルや対応していない形式の MP3、容量が大きいファイルについては、拡張子が .MP3 や .WAV であっても、R-05 で演奏が可能かどうかを判断するのに時間がかかるため、ファイル選択時の表示が遅くなります。	P.69
ヘッドホンでモニターしているのにハウリングが起こる	オープンエアー・タイプのヘッドホンを使用して録音状況をモニターしているときに、R-05 に近づくとヘッドホンから漏れる音を拾ってハウリングを起こすことがあります。R-05 の内蔵マイクは繊細な音も集音してしまいますので、内蔵マイクにあまり近づきすぎないようにしてください。	P.52
内蔵時計がリセットされる	AC アダプターが接続されていたり電池がセットされている場合、内蔵時計はそこから電力を供給されて動作します。電池および AC アダプターが抜かれている状態が数日間続くと、内蔵時計の設定は元に戻ります（初期状態）。この初期状態で電源を ON にすると「日付／時間を設定してください」のメッセージが表示されます。「日付／時間を設定してください」が表示されたら、再度、日付と時刻を設定してください。	P.30
ファイルの分割／結合ができない	SD カードに該当ファイルの 2 倍の空き容量が必要です。また、サイズが 2GB を超えるファイルの結合はできません。	P.93

WAV/MP3 RECORDER：R-05

レコーダー部

トラック数

2（ステレオ）

信号処理

AD/DA 変換：24 ビット、44.1/48/88.2/96kHz

データ・タイプ

<録音時>※ ステレオのみ

フォーマット	MP3（MPEG-1 audio layer 3）
サンプリング周波数	44.1/48kHz
ビット・レート	64/96/128/160/192/224/320kbps

フォーマット	WAV
サンプリング周波数	44.1/48/88.2/96kHz
ビット数	16/24 ビット

フォーマット	WAV+MP3
サンプリング周波数	44.1/48kHz
ビット数	16 ビット固定
ビット・レート	128kbps 固定

<再生時>

フォーマット	MP3（MPEG-1 audio layer 3）
サンプリング周波数	32/44.1/48kHz
ビット・レート	32 〜 320kbps、または VBR（Variable Bit Rate）

フォーマット	WAV
サンプリング周波数	32/44.1/48/88.2/96kHz
ビット数	16/24 ビット

記憶メディア

SD カード

SDHC 規格対応

録音可能時間（目安）　　　　単位：分

録音モード		SD カードのサイズ				
		2GB	4GB	8GB	16GB	32GB
WAV	WAV（24bit／96kHz）	55	110	220	450	900
	WAV（24bit／88.2kHz）	60	120	240	490	980
	WAV（24bit／48kHz）	110	220	440	900	1800
	WAV（24bit／44.1kHz）	120	240	480	980	1950
	WAV（16bit／96kHz）	80	160	320	670	1350
	WAV（16bit／88.2kHz）	88	176	352	735	1470
	WAV（16bit／48kHz）	166	332	664	1350	2700
	WAV（16bit／44.1kHz）	180	360	720	1470	2950
MP3	MP3（320kbps）	797	1540	3080	6450	12950
	MP3（128kbps）	1993	3990	7980	16180	32350
WAV+MP3	WAV（16bit／48kHz）+MP3（128kbps／48kHz）	152	305	610	1240	2490
	WAV（16bit／44.1kHz）+MP3（128kbps／44.1kHz）	165	330	660	1345	2690

※　録音時間は目安です。カードの仕様などにより変わることがあります。

※　録音されたファイルが複数ある場合、合計の録音時間はこれより小さくなります。

※　メモリー・カードは R-05 でフォーマットしたものをご使用ください。

入出力

オーディオ入力

内蔵マイク（ステレオ）
マイク入力端子
（ステレオ・ミニ・タイプ、プラグインパワー対応）
ライン入力端子（ステレオ・ミニ・タイプ）
※　マイク、ライン同時使用不可（ライン入力優先）

オーディオ出力

ヘッドホン端子（ステレオ・ミニ・タイプ）

規定入力レベル（可変）

マイク入力：-33dBu
　（MIC GAIN H、デフォルトのインプット・レベル）
マイク入力：-15dBu
　（MIC GAIN L、デフォルトのインプット・レベル）
ライン入力：-7dBu（デフォルトのインプット・レベル）
※　0dBu=0.775Vrms

入力インピーダンス

マイク入力（MIC GAIN H）：約 7kΩ
マイク入力（MIC GAIN L）：約 5kΩ
ライン入力：約 8kΩ

出力レベル

20mW + 20mW (16Ω 負荷時)

推奨負荷インピーダンス

16Ω 以上

周波数特性

20Hz ～ 40kHz

USB インターフェース

ミニ B タイプ
※　USB 2.0/1.1 マス・ストレージ・デバイス・クラス対応

エフェクト

(再生時のみ。88.2kHz、96kHz 再生時は除く)

リバーブ

4 種類(HALL1、HALL2、ROOM、PLATE)

変速再生

50 ～ 150%の速度

※　リバーブと変速再生は同時に使用できません。

その他

ディスプレイ

128 × 64 ドット・グラフィック・ディスプレイ

電源

AC アダプター、単 3 形(アルカリ乾電池またはニッケル水素電池)×2

消費電流

290mA(最大)

外形寸法

59.6(幅)× 103.0(奥行き)× 25.0(高さ)mm

質量

140.0g(電池を含む)

付属品

取扱説明書
かんたんスタートガイド
SD カード
電池
USB ケーブル(ミニ B タイプ:1m)
ウィンド・スクリーン
ローランド ユーザー登録カード
保証書

※　連続使用時のアルカリ電池の寿命
連続再生時：約 30 時間以上（ヘッドホン使用時）
連続録音時：約 16 時間以上（内蔵マイク使用時）
（使用状況によって異なります）

※　製品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

さくいん

お

か

き

く

け

こ

さ

し

せ

た

て

と

な

は

ひ

ふ

ま

も

り

ろ

お問い合わせの窓口

● 製品に関するお問い合わせ先

ローランドお客様相談センター　050-3101-2555

電話受付時間：　月曜日～土曜日　10:00～17:30（年末年始を除く）

※IP電話からおかけになって繋がらない場合には、お手数ですが、電話番号の前に“0000”（ゼロ4回）をつけてNTTの一般回線からおかけいただくか、携帯電話をご利用ください。

※上記窓口の名称、電話番号等は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

● 最新サポート情報

製品情報、イベント／キャンペーン情報、サポートに関する情報など

ローランド・ホームページ　http://www.roland.co.jp/

'07. 10. 01 現在（Roland）